（資料）

目次

【資料 1】学生および社会人の受験意思・入学意思.....2
【資料 2】本学が大学間交流協定を締結しているアジア圏および英語圏の大学一覧.....43
【資料 3】地元企業の修了生受け入れ意向 44

【資料 1】　　学生および社会人の受験意思･入学意思

1. 調査概要

公共社会学専攻に対する受験意思･入学意思等を明らかにするため、本学学生(以下 A 調査)、みやぎ生活協同組合(以下 B 調査)、川崎町役場職員(以下 C 調査)、大衡村役場職員(以下 D 調査)を対象に質問紙調査を実施した。比較可能なように、共通性の高い調査票を用い、調査に先立って、公共社会学専攻に関する簡潔なリーフレットを示し、その上で回答してもらった。A 調査と B 調査は、Google Forms を用いて Web 調査として行った。C 調査と D 調査は、地域振興課(川崎町)および産業振興課(大衡村)を通じて各職員に調査票を配布･回収する形をとった。調査実施期間は共通に 6 月 1 日～10 日とした。

A 調査では、尚絅学院大学人文社会学類所属の在籍全学生 872 名を対象とした。有効回答数 258、回答率 29.6%だった。

B 調査では、八乙女本部所属の全職員 875 名(正規雇用職員 299 名とパートナー職員や嘱託職員)を対象とした。有効回答数 274、回答率 31.3%だった。

生協職員を対象にしたのは以下の理由による。1)生協は、組合員の出資･利用で成り立っており、組合員の声をもとに運営されている非営利組織である。2)環境、福祉、平和など様々な運動や社会活動にも力を入れており、公共的な課題に対する関心が相対的に高いと考えられること。3)みやぎ生協は本学の卒業生を毎年数名づつ採用しており、本学に対する理解があること。なおみやぎ生協は、県内世帯に占める組合員の加入率 29.7%(2020 年)で、消費者生協として全国トップの加入率である。宮城県内で最大規模の小売事業者でもある。

C 調査では、川崎町役場本庁舎の全職員 110 人を対象とした。有効回答数 103、回答率は 93.6%ときわめて高かった。

川崎町役場職員を対象にしたのは以下の理由による。1)川崎町と本学は、2017 年に包括的連携協力協定を結んでいる。2)地理的にも本学と近接する同町を研究フィールドとする教員も少なくない。3)同町に在住し、同町から通学する学生も多い。川崎町役場と尚絅学院大学との間の距離は 23km、標準的な所要時間は約 33 分(自動車利用の場合)である。

D 調査では、大衡村役場本庁舎の全職員 86 人を対象とした。有効回答数 80、回答率は 93.0%ときわめて高かった。

大衡村役場職員を対象にしたのは以下の理由による。1)大衡村と本学は、2020 年に包括的連携協力協定を結んでいる。2)同村役場と緊密な研究交流を行っている本学教員も複数名存在する。3)同村は人口約 5700 人の宮城県内唯一の村だが、トヨタ自動車東日本本社および同宮城大衡工場が立地するなど、トヨタグループの小型自動車製造の東日本における生産拠点となっている。なお大衡村役場と尚絅学院大学との距離は約 40km、標準的な所要時間は約 60 分(自動車利用の場合)である。川崎町役場と尚絅学院大学との距離に比べると、倍近く時間がかかる。

2. 回答者の基本的属性と学びへの期待

(1)回答者の学年･年齢　図 1 A～D は回答者の学年･年齢である。A 調査では就職活動期のため、4 年生の回答が少なかった。大人数での授業が多く、協力呼びかけが比較的容易だったこ

とから、1 年生の回答割合が高い。B 調査で、20 代・30 代の回答者が少なかったのは、20 代・30 代の職員の多くは店舗などの現場に配属されており、本部職員が少ないためとのことである。C・D 調査では回答率が 90%を越えることから、回答者の年齢構成は職員構成にほぼ対応していると考えられる。

図1A　学年（N=258）

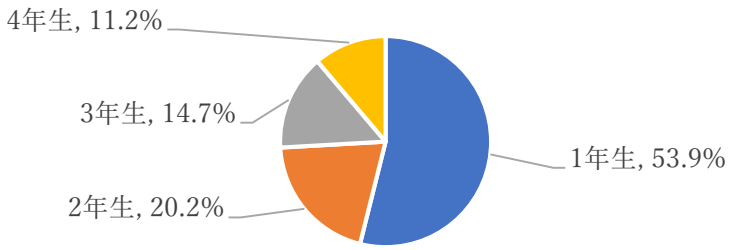


図1B　年齢（N=272）

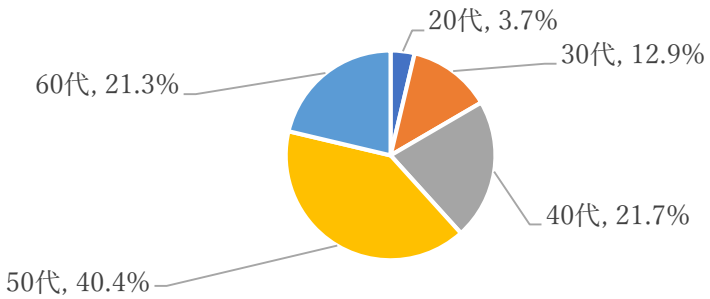
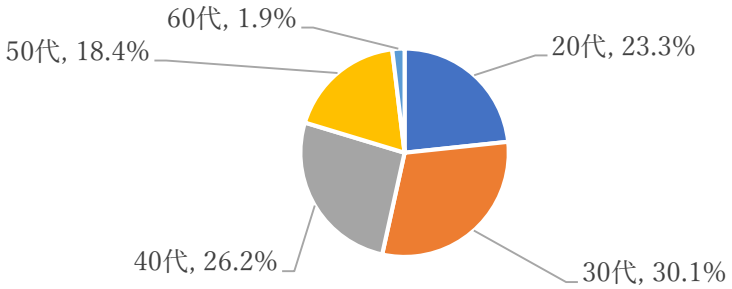
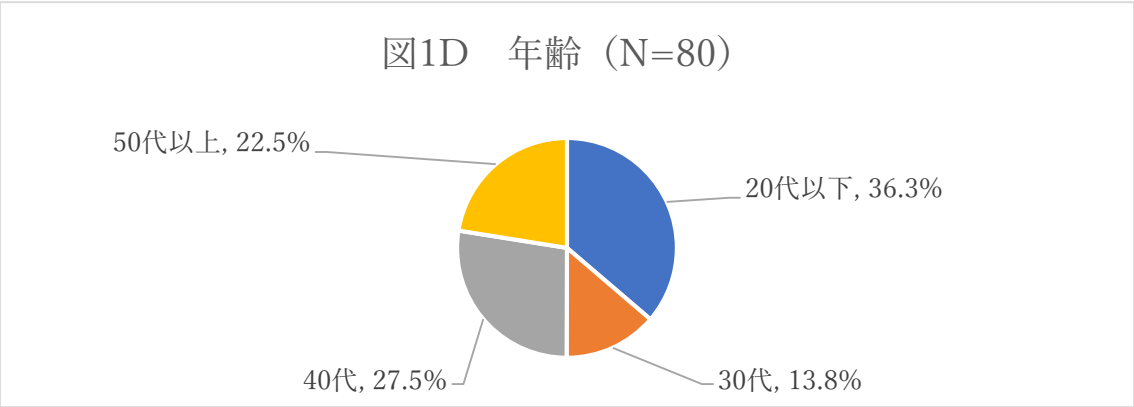


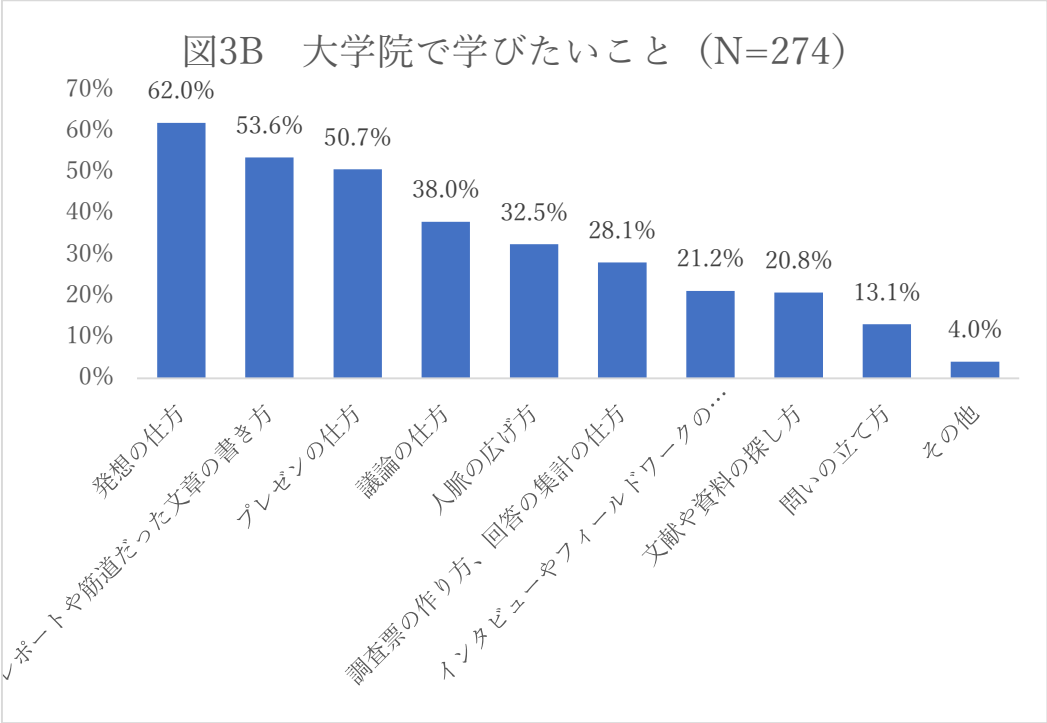
図1C　年齢（N=103）

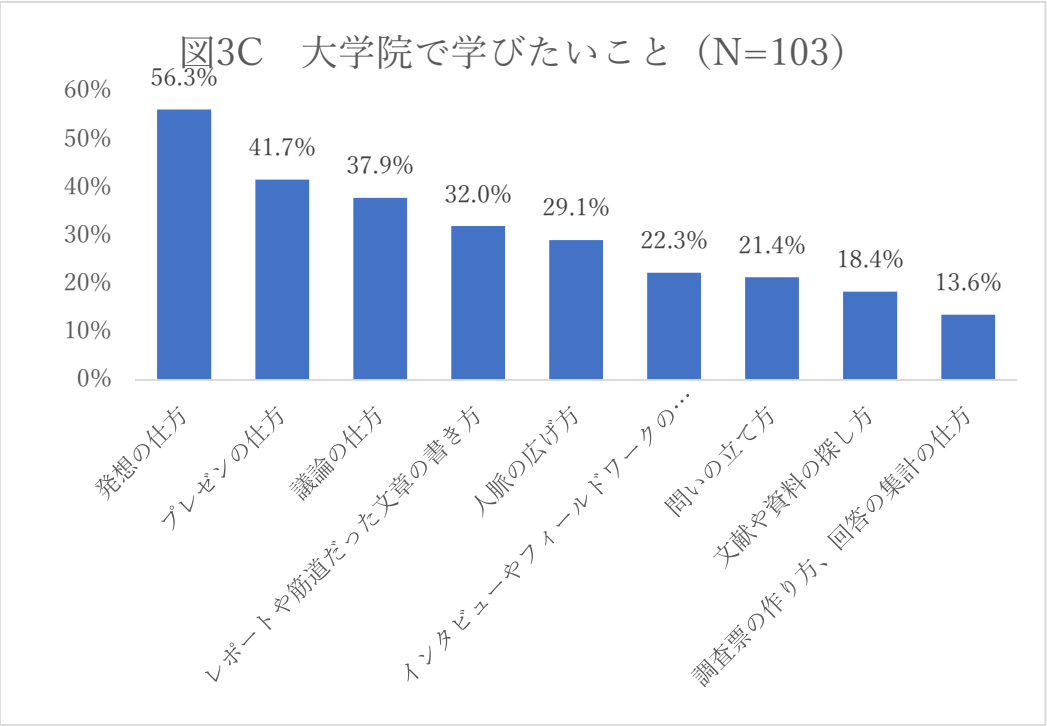


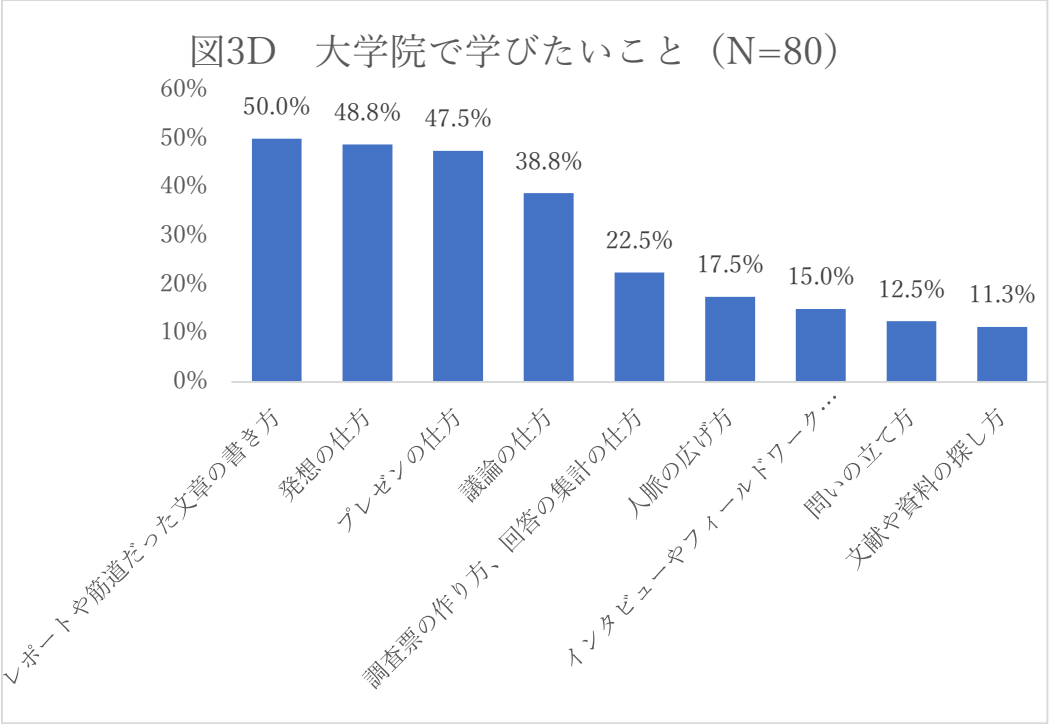


なお以下、N は各設問の有効回答数である。図表は主要なものに限定した。

(2) 大学院で学びたいこと　図 3 B～D は大学院で学びたいことである（現役学生対象の A 調査ではこの設問は除いた）。公共社会学専攻に限定せず、一般的に質問した。9 項目の中から複数回答で、回答の多いものを順に並べた。





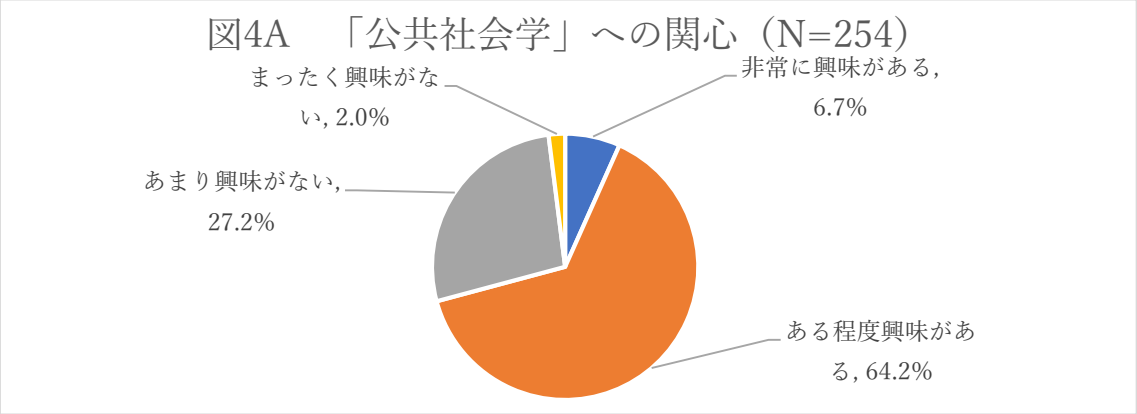


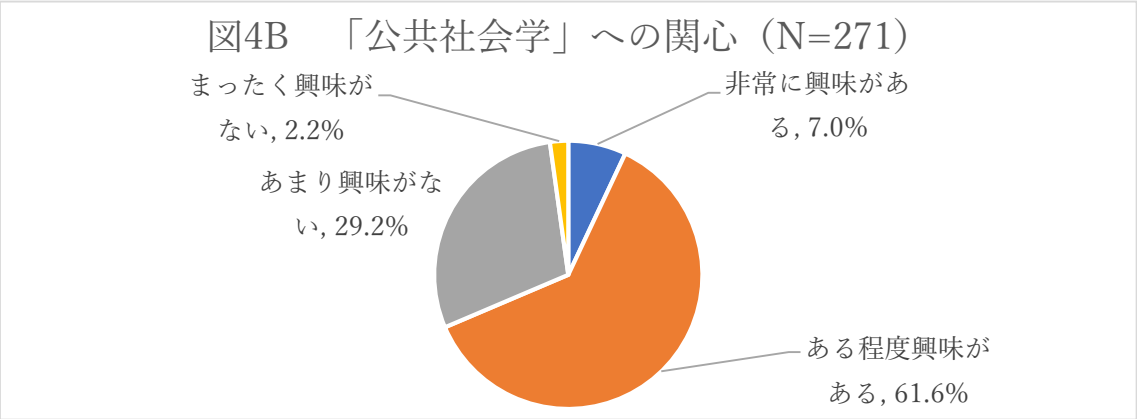
「発想の仕方」「レポートや筋道だった文章の書き方」「プレゼンの仕方」が共通に高い。とくに「発想の仕方」はB調査とC調査で、2位を大きく引き離してトップである。「議論の仕方」「人脈の広げ方」もB調査とC調査で比較的高い。「調査票の作り方、回答の集計の仕方」「インタビューやフィールドワークの仕方」「文献や資料の探し方」は共通に下位だった。

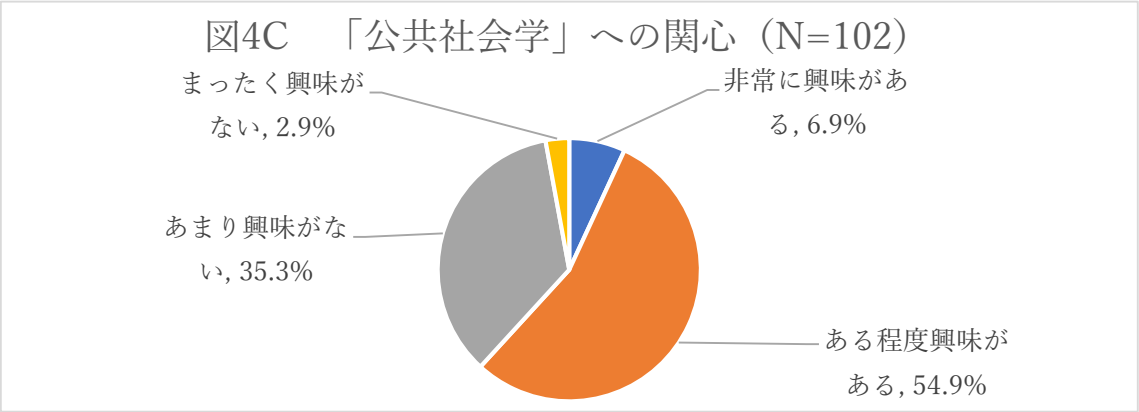
既存の知識や技能を学びたいという以上に、クリエイティブな発想法を身に付けたいと

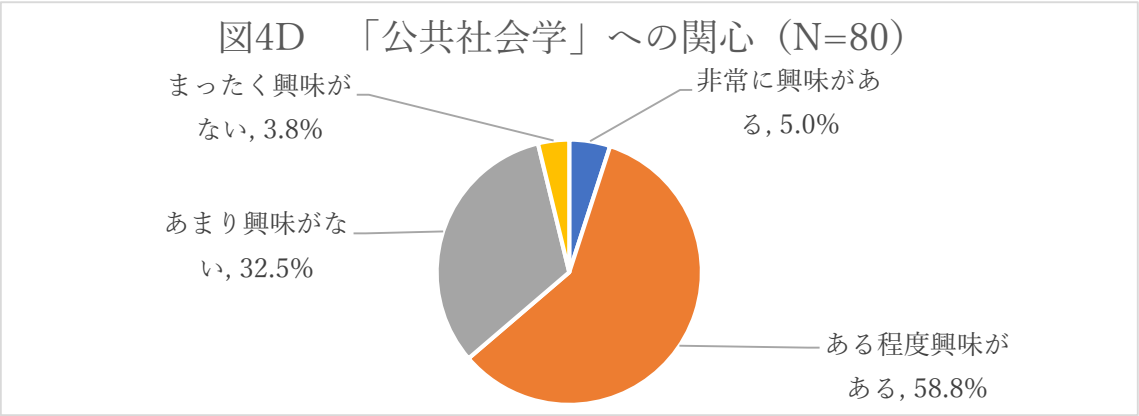
いう期待が大きいことが注目される。

(3) 公共社会学への関心　図 4 A～D は、公共社会学への関心である。具体的には、「配布されたリーフレットを読んで、あなたは「公共社会学」を学ぶことにどの程度興味がありますか」と尋ねた。この質問に対して「非常に興味がある」「ある程度興味がある」「あまり興味がない」「全く興味がない」のなかから一つを選択してもらった。B･C･D 調査では、ほとんどの回答者は公共社会学という言葉を配布されたリーフレットではじめて知ったと考えられるが、それにもかかわらず、「非常に」と「ある程度」の両者をあわせるといずれの調査でも 7 割前後の回答者が公共社会学を学ぶことに興味があると答えている。「あまり興味がない」「まったく興味がない」は、いずれの場合も 3 割前後にとどまる。現役学生と同様の興味がある。

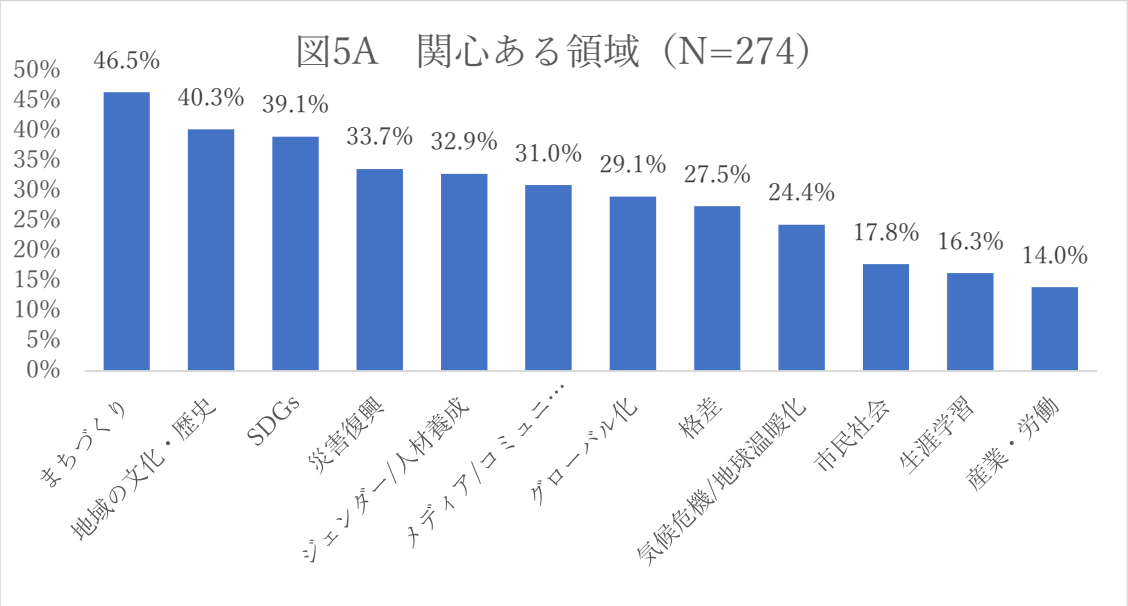








(4) 関心ある領域　図 5 A～D は、公共社会学で学んでみたい内容である。具体的には、「仮に公共社会学専攻で学べるとしたら、学んでみたい内容は何ですか。当てはまるものすべてにチェックを入れて下さい」と述べ、A･B 調査では 12 項目、C･D 調査では 11 項目を設定した。いずれも回答割合が高い順に並べた。4 調査とも、もっとも回答割合が高いのは「まちづくり」である。次に多いのは「地域の文化・歴史」だが、大衡村では順位が低い。「SDGs」は、A･C 調査で 3 位、D 調査で 2 位と予想以上に高い。B 調査では「生涯学習」が第 3 位である。



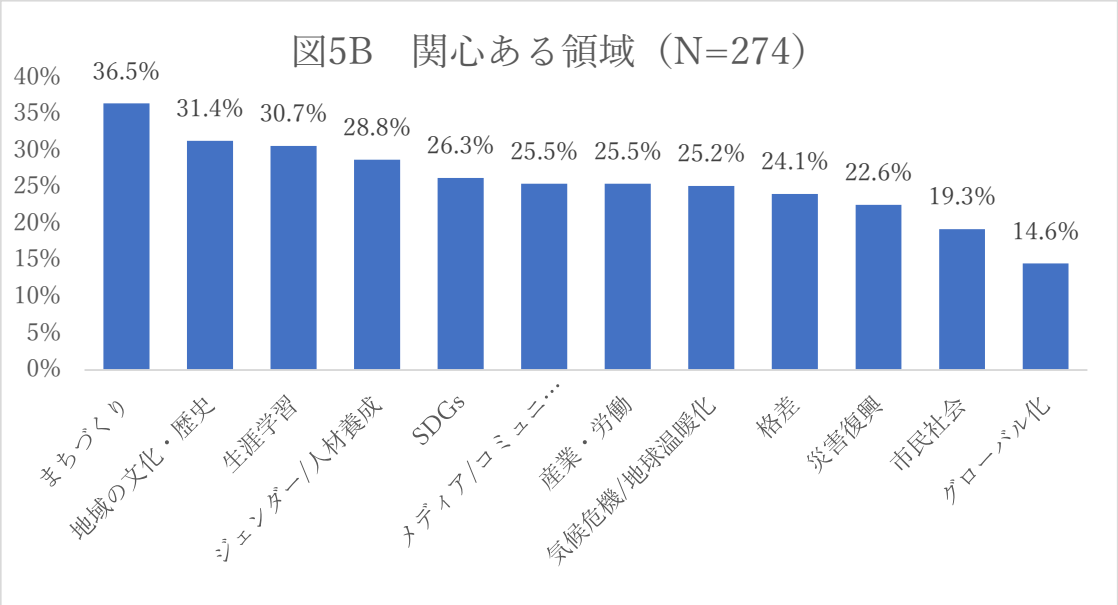


図5B　関心ある領域（N=274）
40%
35%
30%
25%
20%
15%
10%
5%
0%
36.5%
31.4%
30.7%
28.8%
26.3%
25.5%
25.5%
25.2%
24.1%
22.6%
19.3%
14.6%
まちづくり
地域の文化・歴史
生涯学習
ジェンダー/人材養成
SDGs
メディア/コミュニ…
産業・労働
気候危機/地球温暖化
格差
災害復興
市民社会
グローバル化

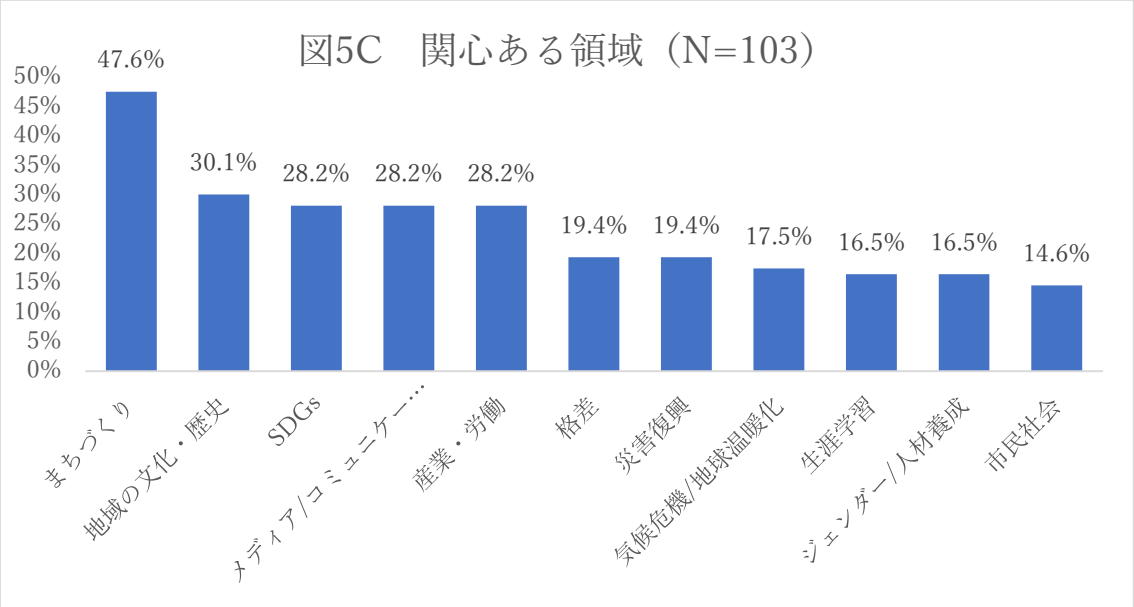
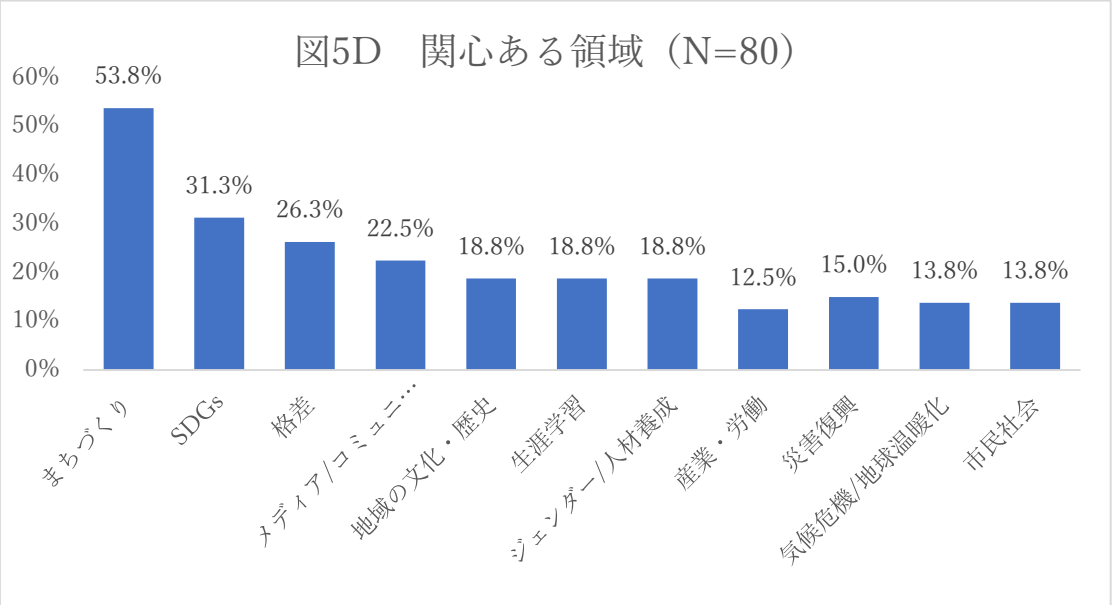


図5C　関心ある領域（N=103）
50%
45%
40%
35%
30%
25%
20%
15%
10%
5%
0%
47.6%
30.1%
28.2%
28.2%
28.2%
19.4%
19.4%
17.5%
16.5%
16.5%
14.6%
まちづくり
地域の文化・歴史
SDGs
メディア/コミュニケー…
産業・労働
格差
災害復興
気候危機/地球温暖化
生涯学習
ジェンダー/人材養成
市民社会



(5)学ぶ上での困難　学ぶ意欲があったとしても、働きながら大学院で学ぶことには多くの困難が予想される。社会人を対象とするB･C･D調査では、代表的な困難5項目を挙げ、複数回答で困難を尋ねた。図6 B～Dは、その結果である。ここでも共通の傾向が見られる。いずれでも「業務の多忙」と「経済的余裕のなさ」が多く、7割から5割近くを占めている。「修論を書く気力がない」も3割以上ある。学ぶ意欲はあっても、修論を書き上げるだけの気力については、自信がないということだろうか。「家族の理解が得られない」は1割前後と予想以上に低かった。家族の理解は大きな障害ではないが、時間的余裕と経済的余裕が大きな壁のようだ。

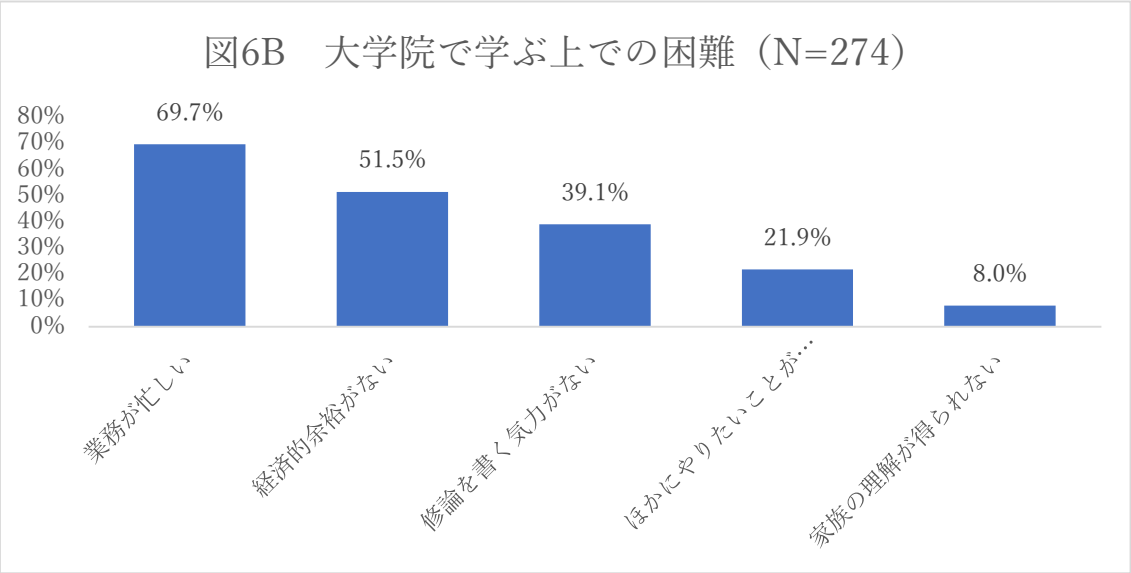


図6B　大学院で学ぶ上での困難（N=274）
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
69.7%
51.5%
39.1%
21.9%
8.0%
業務が忙しい
経済的余裕がない
修論を書く気力がない
ほかにやりたいことが…
家族の理解が得られない

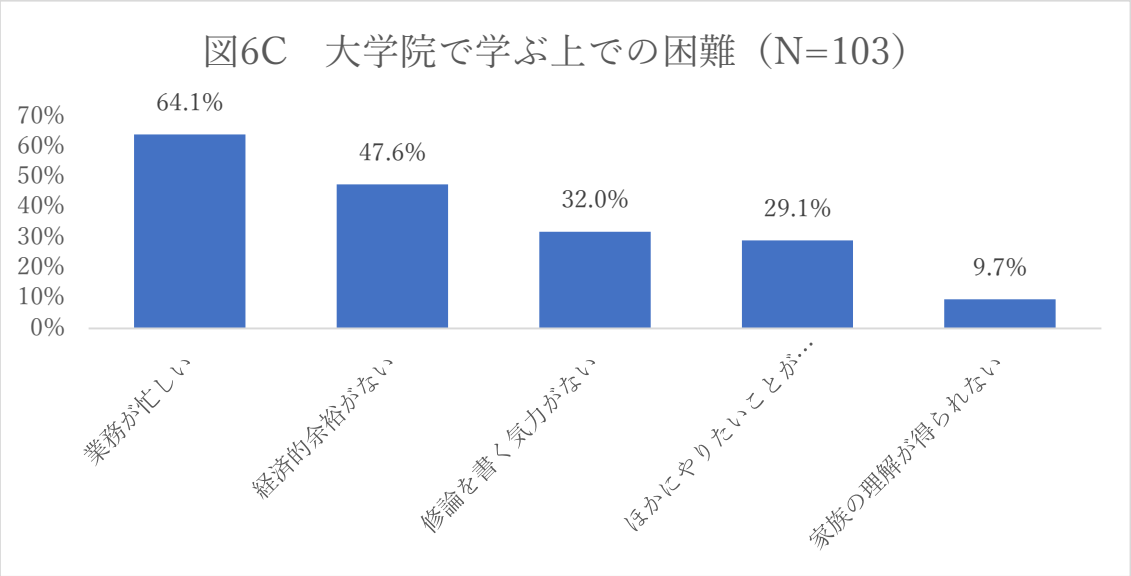


図6C　大学院で学ぶ上での困難（N=103）
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
64.1%
47.6%
32.0%
29.1%
9.7%
業務が忙しい
経済的余裕がない
修論を書く気力がない
ほかにやりたいことが…
家族の理解が得られない

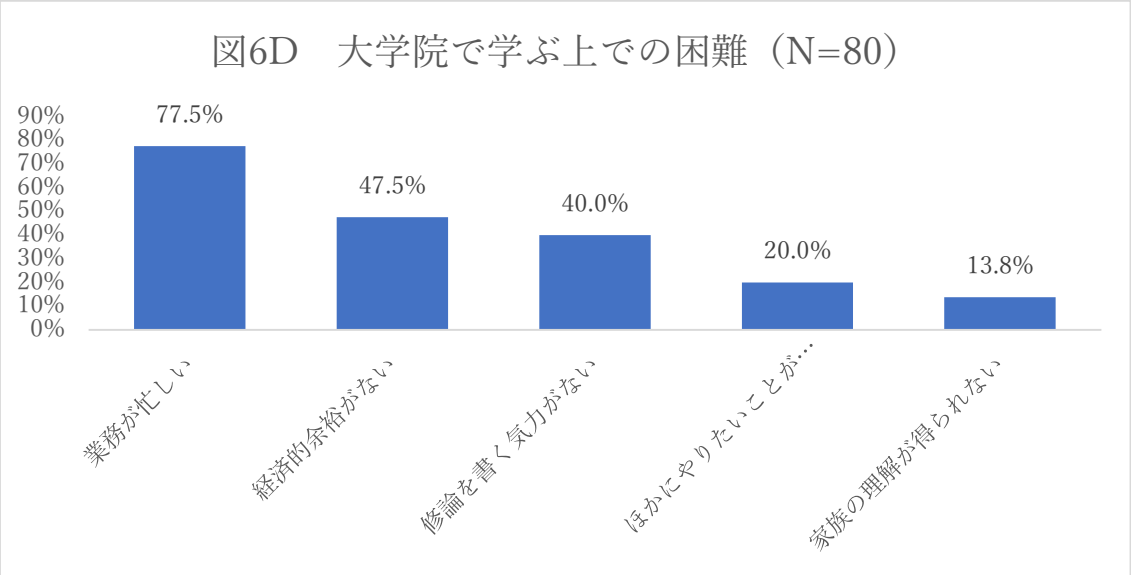


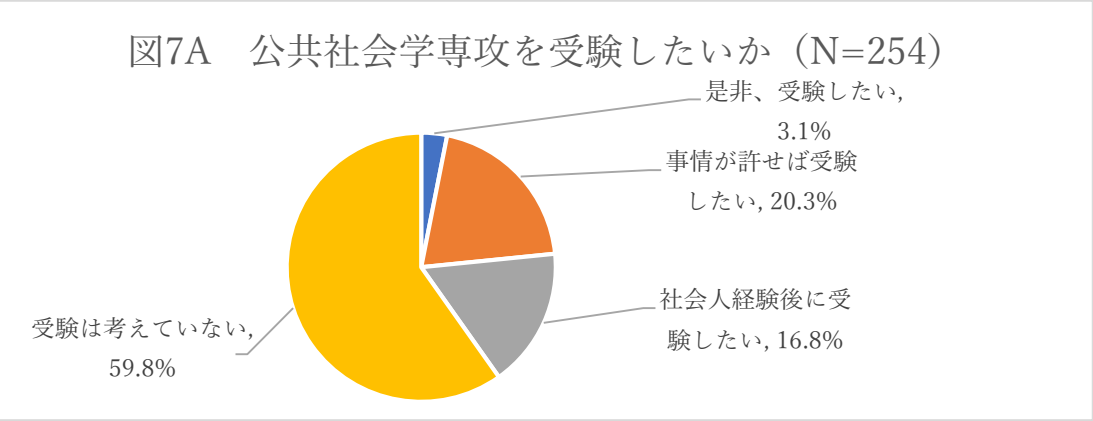
図6D　大学院で学ぶ上での困難（N=80）
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
77.5%
47.5%
40.0%
20.0%
13.8%
業務が忙しい
経済的余裕がない
修論を書く気力がない
ほかにやりたいことが…
家族の理解が得られない

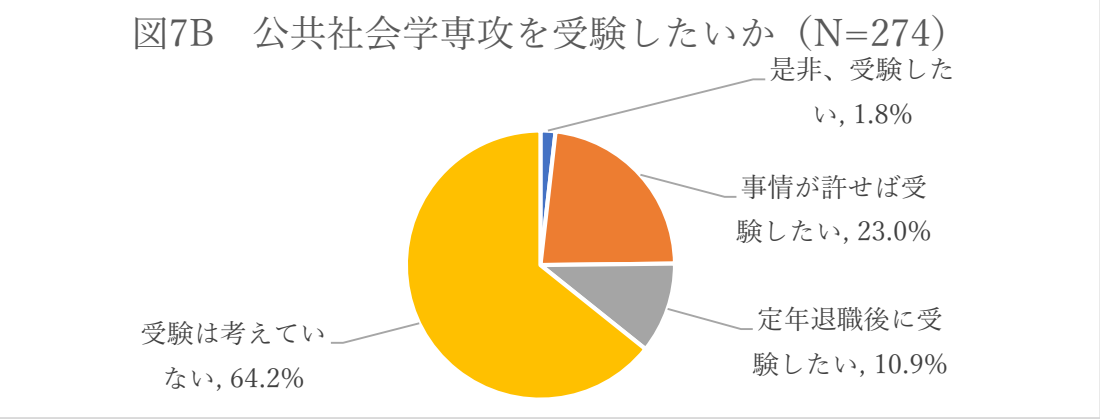
3. 受験意思とその規定要因

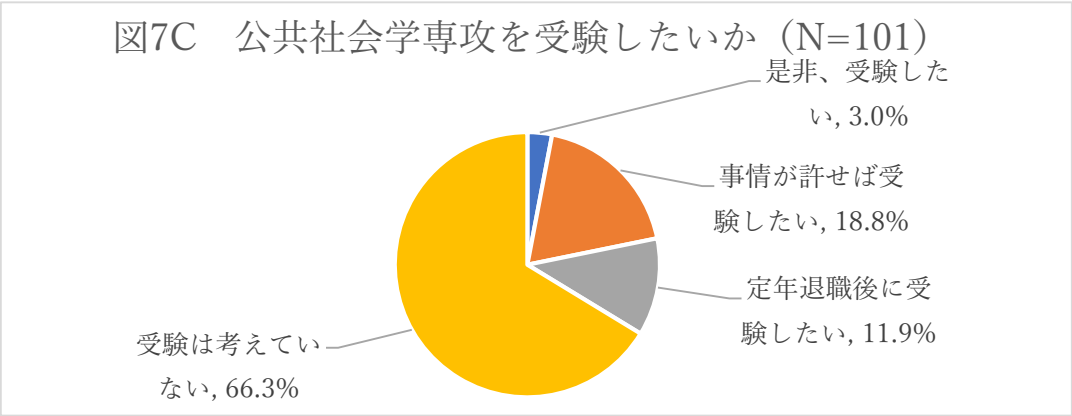
(1) **受験意思**　受験意思に関しては「是非受験してみたい」「経済面や親の理解など、事情が許せば、受験してみたい」。「定年退職後に受験したい」(A 調査では、選択肢を「何年後かに、ある程度社会人としての経験を積んだうえで受験してみたい」とした)「受験することは考えていない」の四つの中から選択してもらった。

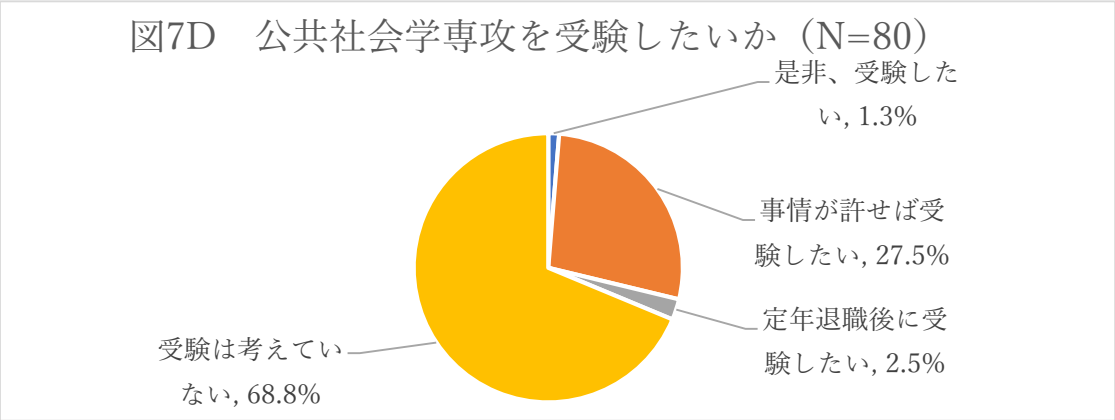
図 7A～D はその結果である。回答結果はいずれも共通性が高い。「受験は考えていない」は 6 割台である。4 割近くが受験したいと答えている。「事情が許せば受験してみたい」と回答したのは 2 割程度である。これらをあわせると 25%前後の回答者が受験したいと回答している。A 調査では「社会人経験後に受験したい」が 17%、B･C 調査では「定年退職後に受験したい」と回答した者が 1 割以上あった。D 調査では、「定年退職後に受験したい」が 2.5%と低かったが、これは大衡村から尚絅学院大学までは前述のように、通学に 1 時間以上を要するためと考えられる。「事情が許せば」という条件付きが多いが、本専攻の受験について、一定のニーズがあることが確認できた。

「是非受験したい」は 1～3%と限られていたが、実数は学生で 8 名、生協職員では 5 名、川崎町役場職員では 3 名、大衡村役場職員では 1 名、計 19 名だった。

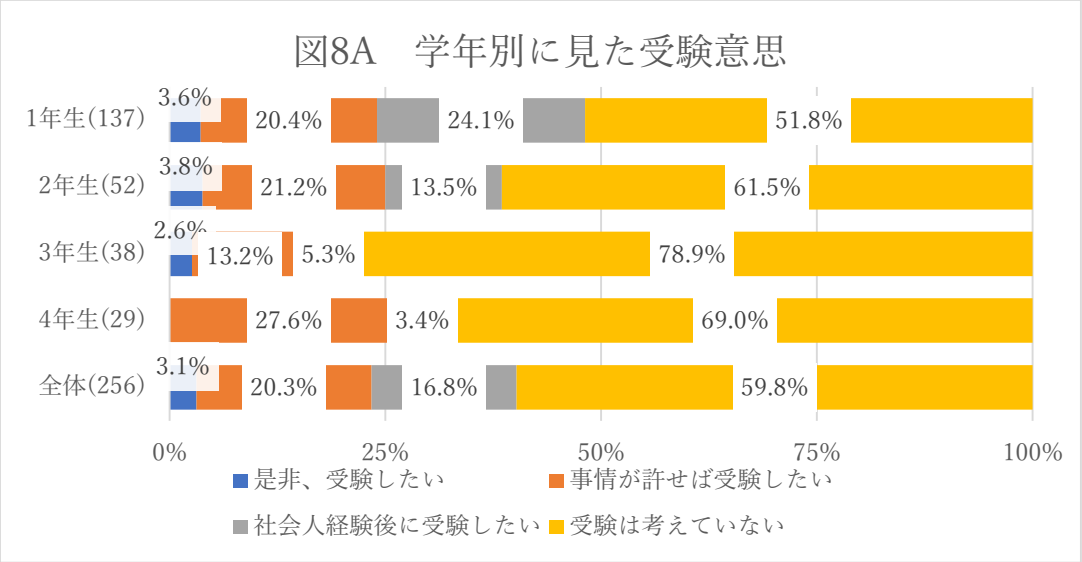








(2)学年・年齢と受験意思　図８ A～D は学年および年齢別にみた受験意思である。1 年生、2 年生において受験意思が比較的高く、3 年生において受験意思は低い。4 年生では、「是非受験したい」との回答はないものの、「事情が許せば受験したい」と回答したのは 27.6%にものぼった。4 年生は調査時点の 6 月上旬は就職活動中だったことを踏まえると、受験したいが、3 割近くにのぼったことが注目される。「是非受験したい」と回答した実数は、4 年生が 0 人、3 年生が 1 人、2 年生が 2 人、1 年生が 5 人である。



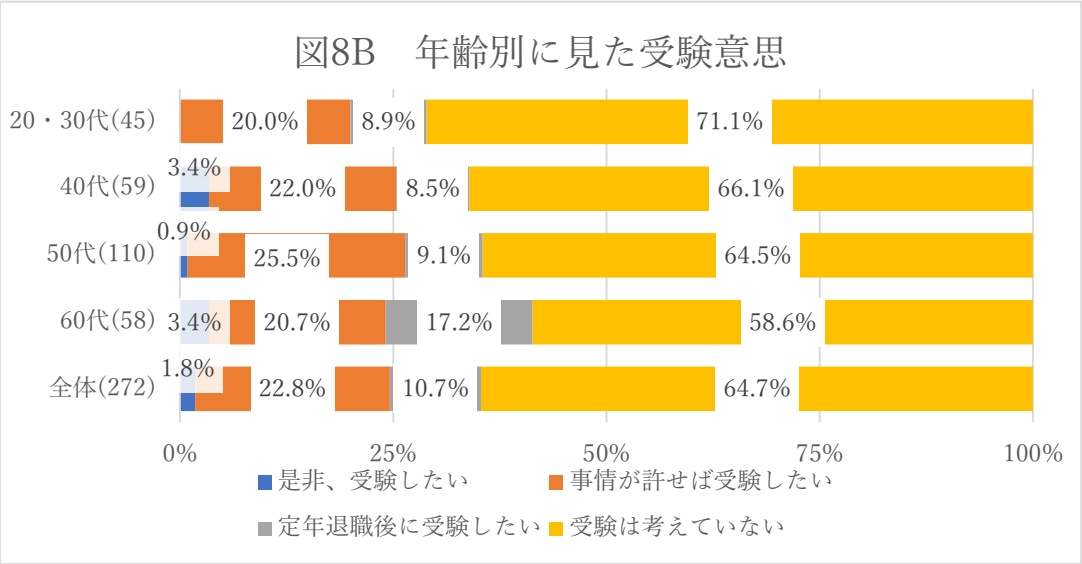


図8B　年齢別に見た受験意思
20・30代(45)
40代(59)
50代(110)
60代(58)
全体(272)
20.0%
8.9%
71.1%
3.4%
22.0%
8.5%
66.1%
0.9%
25.5%
9.1%
64.5%
3.4%
20.7%
17.2%
58.6%
1.8%
22.8%
10.7%
64.7%
0%
25%
50%
75%
100%
是非、受験したい
事情が許せば受験したい
定年退職後に受験したい
受験は考えていない

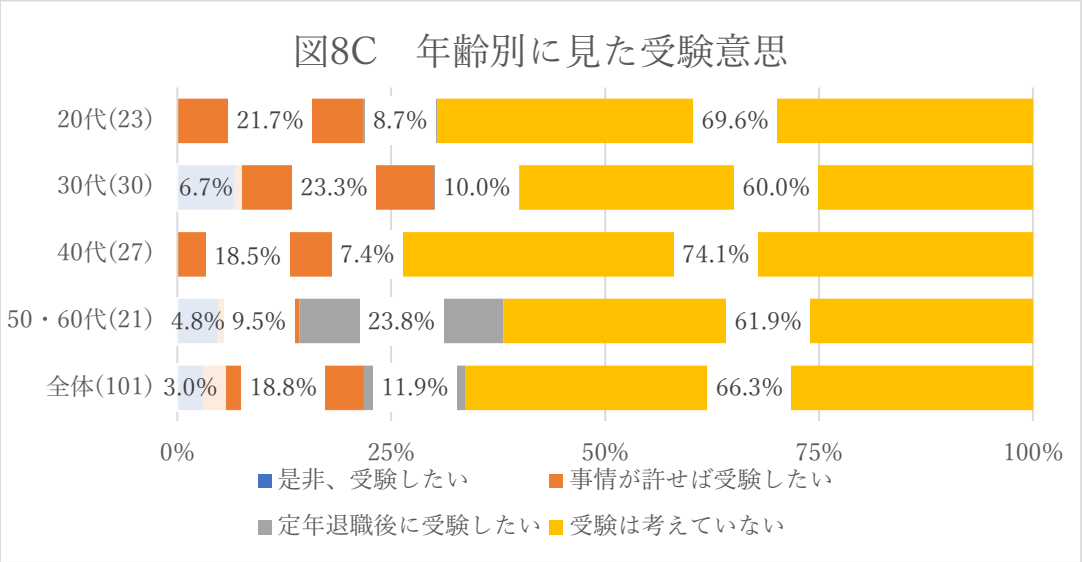


図8C　年齢別に見た受験意思
20代(23)
30代(30)
40代(27)
50・60代(21)
全体(101)
21.7%
8.7%
69.6%
6.7%
23.3%
10.0%
60.0%
18.5%
7.4%
74.1%
4.8%
9.5%
23.8%
61.9%
3.0%
18.8%
11.9%
66.3%
0%
25%
50%
75%
100%
是非、受験したい
事情が許せば受験したい
定年退職後に受験したい
受験は考えていない

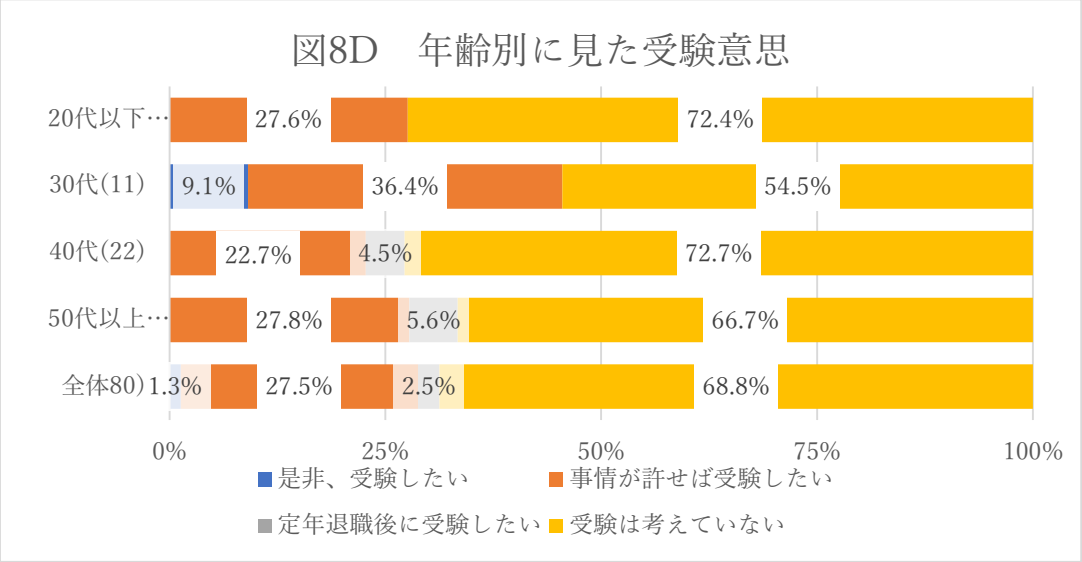


図8D　年齢別に見た受験意思
20代以下…
30代(11)
40代(22)
50代以上…
全体80)
27.6%
72.4%
9.1%
36.4%
54.5%
22.7%
4.5%
72.7%
27.8%
5.6%
66.7%
1.3%
27.5%
2.5%
68.8%
0%
25%
50%
75%
100%
是非、受験したい
事情が許せば受験したい
定年退職後に受験したい
受験は考えていない

B 調査では、60 代が受験意思がもっとも高く、しかも 17.2%が「定年退職後に受験したい」と答えている。定年退職者に生涯学習へのニーズが一定程度あることは興味深い。「事情が許せば受験してみたい」と答えた者が、50 代でもっとも高く、25.5%にも達することも注目される。C 調査でも同様の傾向だが、30 代の受験意思が強く、「是非受験したい」が 6.7%、「事情が許せば受験してみたい」が 23.3%である。D 調査でも、30 代の受験意思が強い。「是非受験したい」が 9.1%、「事情が許せば受験してみたい」が 36.4%である。公共社会学専攻は、比較的若手の役場職員のニーズに応えていると言える。

性別にみた受験意思については紙数の都合で図表を省略した。B･D 調査では性差は相対的に小さかったが、A･C 調査では、男性の方が受験したいが多かった。大学院進学に関して、女性の方がなお障害が多いことを反映していると見られる。定年後の人生設計は男性においてより切実であり、大学院進学が定年後の選択肢の 1 つでありうることを示している。

(3)学んでみたいことと受験意思　図 3B～D に示した大学院で学んでみたいことと受験意思との関係を表 1B～D に示した。ここでは、9 項目の中から、「是非受験したい」「条件が許せば受験したい」と回答した割合が高い上位 5 項目を示した。

B 調査で受験意思が高いのは「発想の仕方」「プレゼンの仕方」「議論の仕方」「問いの立て方」であり、「発想の仕方」の割合がやや多いものの、この 4 項目に大きな差はなかった。「事情が許せば受験したい」と」回答する割合も比較的高い。この 4 項目に次ぐのが、「文献や資料の探し方」である。B 調査では、「人脈の広げ方」「調査票の作り方、回答の集計の仕方」「インタビューやフィールドワークの仕方」「レポートや筋道だった文章の書き方」は、受験意思とのつながりは相対的に低かった。

表1B　学びたいことと受験意思との関係：上位5項目

	是非、受験したい（①）	事情が許せば受験したい（②）	定年退職後に受験したい	受験は考えていない	①＋②
全体(274)	1.8%	23.0%	10.9%	64.2%	24.8%
発想の仕方 (170)	2.4%	27.6%	14.1%	55.9%	30.0%
プレゼンの仕方(139)	1.4%	27.3%	11.5%	59.7%	28.7%
議論の仕方(104)	0.0%	27.9%	14.4%	57.7%	27.9%
問いの立て方(36)	0.0%	27.8%	13.9%	58.3%	27.8%
文献や資料の探し方(57)	1.8%	21.1%	17.5%	59.6%	22.9%

表1C　学びたいことと受験意思との関係：上位5項目

	是非、受験したい（①）	事情が許せば受験したい（②）	定年退職後に受験したい	受験は考えていない	①＋②
全体(101)	3.0%	18.8%	11.9%	66.3%	21.8%
人脈の広げ方(29)	10.3%	31.0%	13.8%	44.8%	41.3%
プレゼンの仕方(41)	0.0%	34.1%	14.6%	51.2%	34.1%
問いの立て方(22)	9.1%	22.7%	18.2%	50.0%	31.8%
発想の仕方 (58)	5.2%	19.0%	12.1%	63.8%	24.2%
議論の仕方(38)	5.3%	15.8%	15.8%	63.2%	21.1%

表1D　学びたいことと受験意思との関係：上位5項目

	是非、受験したい（①）	事情が許せば受験したい（②）	定年退職後に受験したい	受験は考えていない	①＋②
全体(101)	1.3%	27.5%	2.5%	68.8%	28.8%
文献や資料の探し方(9)	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	66.7%
インタビューやフィールドワークの仕方(12)	0.0%	41.7%	8.3%	50.0%	41.7%
発想の仕方 (47)	2.1%	34.0%	4.3%	59.6%	36.1%
人脈の広げ方(14)	7.1%	28.6%	0.0%	64.3%	35.7%
議論の仕方(31)	3.2%	32.3%	3.2%	61.3%	35.5%

C 調査で受験意思が高いのは順に「人脈の広げ方」「プレゼンの仕方」「問いの立て方」「発想の仕方」「議論の仕方」だった。とくに「人脈の広げ方」と受験意思とのつながりが強いことは、川崎町役場職員の回答結果に顕著な特色である。

D 調査で受験意思が高いのは順に「文献や資料の探し方」「インタビューやフィールドワークの仕方」「発想の仕方」「人脈の広げ方」「議論の仕方」だった。とくに「文献や資料の探し方」「インタビューやフィールドワークの仕方」と受験意思とのつながりが強いことは、大衡村役場職員の回答結果に顕著な特色である。

C･D の役場職員調査で、ともに「人脈の広げ方」と受験意思が強いつながりを持つことは興味深い。

(4) 学びたい分野と受験意思　大学院で学んでみたい内容と受験意思との関係について調査結果を表 2 で示した。ここでは、学びたい分野 12 項目の中から、「是非受験したい」「条件が許せば受験したい」と回答した割合が高い上位 5 項目を示した。

大学生では「是非受験したい」と回答した割合が高いのは「気候危機/地球温暖化」(6.5%)、「産業・労働」(5.6%)、「生涯学習」(4.9%) の順であった。「事情が許せば受験したい」と回答する割合も比較的高い。これらの項目は「地域の文化･歴史」を除いて、関心ある領域として挙げられた割合は図 5A のように相対的に低かったが、受験意思との結びつきが強い。

学生の関心ある領域は、「気候危機」や「市民社会」など比較的専門性の高いテーマ群と、「まちづくり」「SDGs」「ジェンダー/人材養成」「メディア/コミュニケーション」「グローバル化」「格差」など比較的広く浅く関心を持たれる領域とに大別されることが明らかになった。

表2A　学んでみたい内容と受験意思との関係：上位5項目

	是非、受験したい	事情が許せば受験したい	社会人経験後に受験したい	受験は考えていない
全体(256)	3.1%	20.3%	16.8%	59.8%
気候危機/地球温暖化 (62)	6.5%	27.4%	17.7%	48.4%
産業・労働(36)	5.6%	30.6%	8.3%	55.6%
生涯学習(41)	4.9%	26.8%	7.3%	61.0%
市民社会(45)	4.4%	31.1%	13.3%	51.1%
地域の文化・歴史(102)	3.9%	29.4%	16.7%	50.0%

表2B　関心ある領域と受験意思との関係：上位5項目

	是非、受験したい（①）	事情が許せば受験したい（②）	定年退職後に受験したい	受験は考えていない	①＋②
全体(274)	3.1%	20.3%	16.8%	59.8%	23.4%
市民社会(53)	3.8%	35.8%	18.9%	41.5%	39.6%
ジェンダー/人材養成(79)	1.3%	34.2%	13.9%	50.6%	35.5%
格差(66)	1.5%	31.8%	12.1%	54.5%	33.3%
SDGs(72)	1.4%	29.2%	15.3%	54.2%	30.6%
災害復興(62)	1.6%	29.0%	11.3%	58.1%	30.6%

表2C　関心ある領域と受験意思との関係：上位5項目

	是非、受験したい（①）	事情が許せば受験したい（②）	定年退職後に受験したい	受験は考えていない	①＋②
全体(101)	3.0%	18.8%	11.9%	66.3%	21.8%
市民社会(15)	6.7%	26.7%	20.0%	46.7%	33.4%
産業・労働(29)	6.9%	24.1%	10.3%	58.6%	31.0%
格差(20)	0.0%	30.0%	10.0%	60.0%	30.0%
メディア/コミュニケーション(29)	0.0%	27.6%	17.2%	55.2%	27.6%
まちづくり(47)	4.3%	21.3%	10.6%	63.8%	25.6%

表2D　関心ある領域と受験意思との関係：上位5項目

	是非、受験したい（①）	事情が許せば受験したい（②）	定年退職後に受験したい	受験は考えていない	①＋②
全体(80)	1.3%	27.5%	2.5%	68.8%	28.8%
格差(21)	0.0%	52.4%	4.8%	42.9%	52.4%
ジェンダー/人材養成(15)	6.7%	40.0%	6.7%	46.7%	46.7%
メディア/コミュニケーション(18)	5.6%	38.9%	0.0%	55.6%	44.5%
生涯学習(15)	0.0%	40.0%	0.0%	60.0%	40.0%
まちづくり(43)	2.3%	30.2%	2.3%	0.0%	32.5%

B 調査、生協職員で受験意思との関連が高いのは「市民社会」「ジェンダー/人材養成」「格差」「SDGs」「災害復興」であった。「市民社会」への関心がとくに高く、「SDGs」への関心も高いことが注目される。

C 調査、川崎町役場職員で受験意思との関連が高い項目は「市民社会」「産業・労働」「格差」「メディア/コミュニケーション」「まちづくり」であった。「市民社会」「産業・労働」「格差」への関心がとくに高いことが注目される。

D 調査、大衡村役場職員で受験意思との関連が高い項目は「格差」「ジェンダー/人材養成」「メディア/コミュニケーション」「生涯学習」「まちづくり」であった。「格差」「ジェンダー/人材養成」「メディア/コミュニケーション」への関心がとくに高いことが注目される。

4. 入学意思

入学意思に関しては「仮に入学試験に合格したら」という前提で、「是非、入学したい」「事情が許せば、入学したい」「定年退職後に入学したい」「入学することは考えていない」の四つの中から選択してもらった。

図 11A～D はその結果である。「事情が許せば入学したい」と回答したのがいずれの調査でも 3 割前後いる。A の学生対象の調査では、「社会人経験後に入学したい」が 15.6%だった。過半数以上が入学したいと答えている。「定年退職後に入学したい」は B・C 調査では 1 割前後いる。B・C・D 調査では、それぞれあわせると 4 割近い職員が公共社会学専攻に入学したいと回答している。

図11A　公共社会学専攻に入学したいか（N=254）

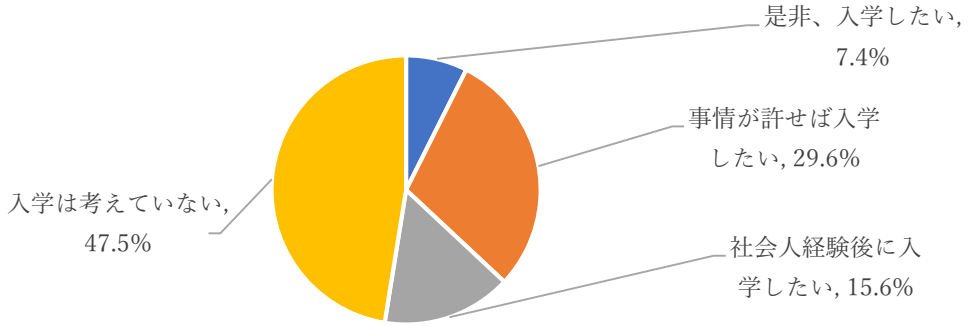


図11B　公共社会学専攻に入学したいか（N=270）

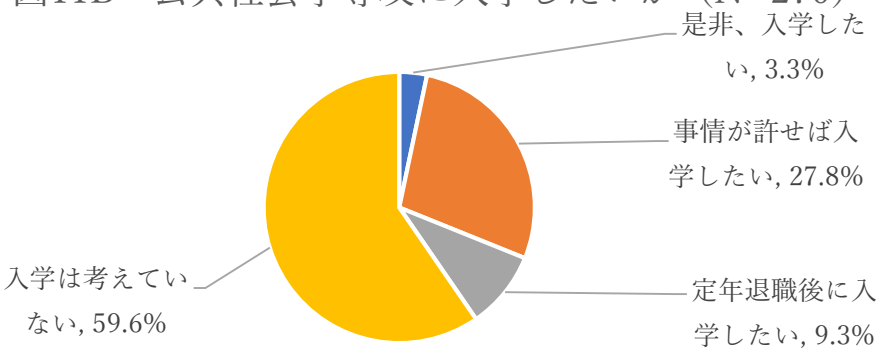


図11C　公共社会学専攻に入学したいか（N=101）

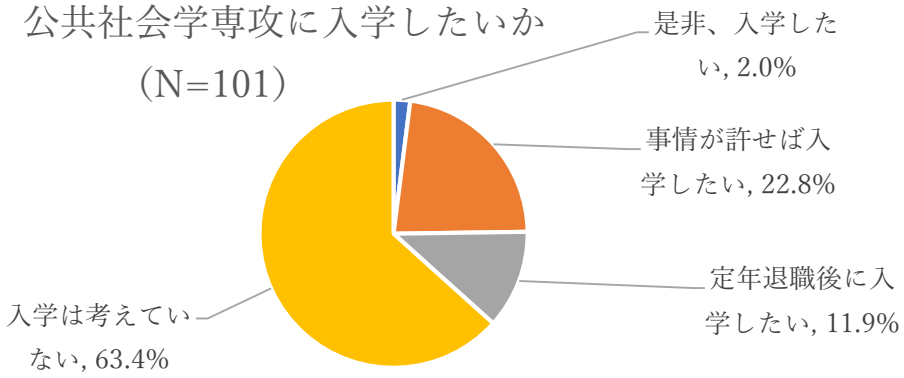
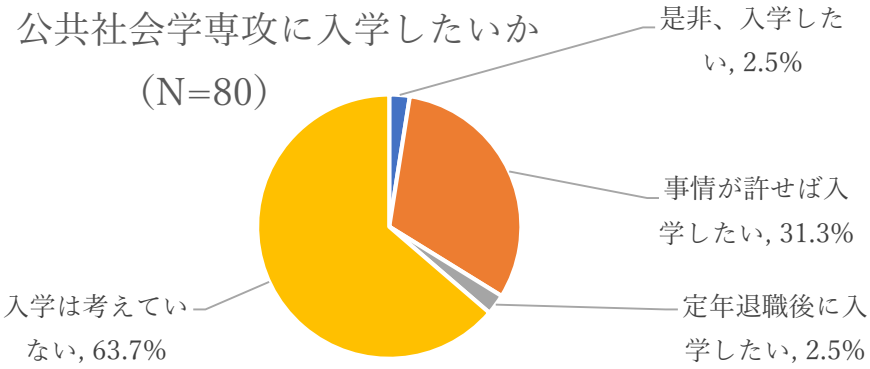


図11D　公共社会学専攻に入学したいか（N=80）



「是非、入学したい」と回答したのはA調査で7.4%、B･C･D調査で2～3.3%だった。実数にすると、「是非入学したい」は、学生は19名、生協職員では9名、川崎町役場職員では2名、大衡村役場職員では2名だった。年齢別にみた入学意思も60代の入学意思が高いなど、図8A～Dの受験意思と同様の傾向が見られた。

5. 自由回答

調査票の最後の箇所に、公共社会学専攻の設置に関して意見や要望などあれば自由に記入してもらった。A調査(大学生調査)では11件の自由回答があった。B調査(みやぎ生協職員)では、計90件もの自由回答があった。B調査で自由回答に記入した者の割合は、回答者全体の32.8%にも達し、異例に高い。みやぎ生協職員の公共社会学専攻への関心の高さを雄弁に物語っている。内容に関しても、漠然とし過ぎている、具体的なイメージが湧きにくい、興味が持てないなどの否定的意見は計5件程度で、概ね、期待を込めた回答である。在宅での受講を求める意見が2件あった。C調査では8件、D調査では5件の自由回答があった。いずれも明らかな誤字を修正したのみで、そのまま、末尾に使用した4種類の調査票とともに掲載した。

6. まとめ―定員設定･ディプロマ･ポリシー設定等の妥当性と今後検討すべき対応策

公共社会学専攻には、本学学生からも、事業所職員からも一定の受験ニーズ･入学ニーズがあることが確認できた。「是非受験したい」は、既に就職活動期に入っている4年生では0名だったが、3年生では1名(2.6%)、2年生では2名(3.8%)、1年生では5名(3.6%)だった。生協職員では5名、川崎町役場職員では3名、大衡村役場職員では1名、合計17名。仮に合格したとして、「是非入学したい」は、大学4年生では1名(3.4%)だったが、3年生では2名(5.3%)、2年生では6名(11.5%)、1年生では10名(7.2%)だった。生協職員では9名、川崎町役場職員では2名、大衡村役場職員では2名、合計33名に達する。

定員6名は、新卒学生3名程度、社会人入学者3名程度を想定したものである。本調査結果は、この想定が現実的であり、妥当であることを示している。

しかも、受験意思･入学意思は、尚絅学院大学学生とみやぎ生協職員、川崎町役場職員、大衡村役場職員とで類似した傾向を示している。大衡村役場職員で定年退職後受験したい･入学したいが少ないものの、大きな差はなかった。

「事情が許せば入学したい」というニーズに対応するため、夜間や土曜日の開講、オンラインでの開講などに積極的に取り組むべきことがわかった。また地元企業の寄付を募るなどして公共社会学専攻の院生に対する奨学金を拡充することも、進学者の経済的負担を軽減しうる効果的な対策と考えられる。

受験意思･入学意思を規定しているもっとも基本的な要因は、公共社会学への関心度である。学んでみたい内容の中では、「市民社会」「ジェンダー/人材養成」「格差」「SDGs」「災害復興」などのトピックスに関心を持つ回答者が、全般に受験意思･入学意思が相対的に高いことが注目される。市民社会への関心がとくに高く、SDGsへの関心も高いことは興味深い。これらはまさに、教育社会学、生涯教育論、地域経営学、環境経済学、環境社会学、災害社会学など、本専攻でとくに重点を置く授業科目と関連が深い。本専攻の授業科目群が、社会人の大学院進学ニーズに対応していることも確認できた。

社会人を対象とした調査で受験意思が高いのは「発想の仕方」「プレゼンの仕方」「議論の仕方」「問いの立て方」であり、役場職員調査では、川崎町・大衡村ともに「人脈の広げ方」と受験意思が強いつながりを持っていた。社会人入学を重視した本専攻のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、授業科目編成は、社会人にとっても、魅力あるものとなっていることが確認できた。

A. 尚絅学院大学人文社会学類学生調査　自由回答計 11 件(回答受付順に、自由回答の全てを列挙した。以下同)

・学べることをもっと詳しく具体的に知りたい。範囲が広すぎて、入ってからどれか選択して探究できるのかなど。実際どういった体制の大学院なのか専攻なのか。
・パンフレットの履修モデルにパターンかあれば見てみたかったです。
・公共社会学に興味がある人の多くに、この大学院の存在を知ってもらいたいなあと思いました。
・設置するべきだと考えます。
・私は大学卒業後は就職するので、大学院に進学することは考えていませんが、設置実現に向けて頑張ってください。公共社会学は、大学のゼミで社会学を徹底的に研究した人は進学しても良いのではないでしょうか？
・通うお金が不安なので、お金を稼いでから改めて大学院に行ったり専門学校に行ったりするのが目標で、その選択肢として存在してほしいです。社会学を学ぶ為に尚絅に来たので建てて欲しい気持ちもあります。
・とても良いと思います
・専攻の設置について、領域が広く具体的には何が学べるのか、何をする学問なのか、説明を聞いても分からない人が多いと思うので、入学後の明確なビジョンの説明を充実させる必要があると思います。また、様々な分野を学べる自由度が高いと思われますが、その分、いざ大学院を卒業したときに何を学んだか分からないようなことにはならないように、数あるうちの、その分野に特化した専門性を身に付けることができる授業体制であることに期待します。最後に、四年生の立場からですが、将来の就職も考慮した、あるいはそれにつながる学びの環境や授業体制が要素の一つとしてあればかなり安心できるので、考えていただけるとありがたいです。
現状で様々な課題・問題があるかと思いますが、頑張ってください。応援しています。
・今後の尚絅学院大学の発展に関わる大事な試みで、人文社会学類の学びを活かせる場だと思うのでいいと思いました。
・より詳しく勉強できるため賛成です。
・必ず将来のキャリア形成に良い影響を与える分野だと思うので良いと思う。

B. みやぎ生協職員調査　自由回答計 90 件(回答受付順)

・公共社会学の理想が自助の組織生協の原理原則と一致すると感じました。なのでこの専攻を学ぶことで生協のキャリアに繋がるような取組があればいいと思いました。
・東日本大震災から 10 年以上が経過し、災害対応からまちづくりに移り、目の前のことから未来に向けての行動に世の中が変わったのを実感しています。防災という観点からも、環境だけでなく経済的な観点も重要で、さらに多様化社会となり様々な人を尊重する社会である必要性からジェンダーや人種など広い視野をもち対応することが重要だと感じています。
・大学院となると、一つの分野をより深く学ぶイメージでしたが、総合的に分野横断的に学ぶ機会が得られる「公共社会学」の専攻が作られることは新たな発見でした。

・30 代は更なる知識を広げるために、本来であれば大学院などの学びを得るべきだと思いますが、経済的観点や時間の制約からなかなか難しいと個人的に感じています。
・毎日の仕事や家族のこと精一杯で、世の中の情報がどこか他人事として感じてしまうので、今回のアンケートを通して、学びの必要性を感じることができ「自分事」として色々考えていきたいと感じました。ありがとうございました。
・学べたことが何らかの形で社会に生かせることが出来ないか？と思いました。
・大学から直結してつぎのフィールドに行けるようにお膳立てしたプランがあると良いと思いました。学科を設置しただけではお飾りで終わってしまうので、次がある程度用意されていると学んだあとも希望も持てると思いました。せっかく卒業するのであれば卒業後を常に見据えた案内があると年齢層も広く取れるのではないかと思いました。リーフレットだけではただ漠然としていて該当者である方がスルーする可能性もあると思いました。
・他大学にあまりない専攻設置なので地域に貢献してほしい
・他大学（院）や研究機関等との連携強化
・宮城県の先駆けとして期待します。
・現在職位の給料が低く、今後も上がる見込みがない。経営的にも改善の見込みはない。セカンドキャリアとして、何か学び、生活に生かしたいが、職場環境的には難しいため、時間の自由度があり、低コストなら検討。また、再就職に役立てたいため、具体的な学習内容や、どんな就職先（可能性）があるか知りたい。
・震災を経て、他の地域から来た方々をどのように受け入れて地域が変化していくのか興味があります。逆に、東北から出て行った人たちは　他の地域でどんな影響をあたえているのでしょう。他者のためにや、公共のためにとういう気持ちは、どんな状況で活発になり、また、縮小していくのかなど、被災した地域での活動は　未来に向けて必要なものと思います。
・公共に寄与いただけるリーダーシップのある市民の方が増えると期待しています。
・社会に出てからも学びたいという方はたくさんいると思います。色々な事に挑戦してみたいという方もいます。とても良い試みだと思います。
・地域社会での活動が希薄ないま、このような学習の場を提供していくことは有意義と思います。大変なご苦労もあるかと思いますが、学べる場が増えていくことを期待します。
・尚絅大卒業生です。一部の先生方は学生をやる気のない学生とみているように感じました。まずは先生方の学生に対する目を変えていけば、より良い大学になると思います。
・専門社会調査士の資格を取得することが、社会人としての将来のキャリアにどのような可能性が広がるのか、一般的な認知度はまだまだ低いのではないでしょうか。これからの社会にとても重要な人材の育成だと思われるので、その人材の受け皿も大きいものになるといいなと思います。
・専門社会調査士を初めて聞いた。
・これから、どれくらい必要とされるのか、わからない。
・現在、通信制大学に在籍し、人間科学（心理学専攻）の学びを深めています。学びを進

めていくうえで通信制ならではのやりづらさも感じます（すぐに質問・相談できない、学習を共有しにくい、体感しにくいなど）。
・地元に社会人も受け入れてくれる大学・大学院が増えることは大変望ましいことです。自身で考え、しっかりと社会のために行動できる人が増えることを願います。
・そのためには議論を行う場面も出てきますし、そうした議論に参加できる知識を大学で学ぶことも必要です。年齢問わず大学に通われるみなさんが自ら考え行動できる人間になれるよう期待します。
・地元の大学が、よりよいまちづくり・社会づくりに貢献していただけることはとても望ましいことだと思います。
・娘が他の大学で勉強しています。卒業後、転入は可能でしょうか
・普段の業務に通ずる学びが得られる学科が新設されるとのことで、興味がわきました。
・問５の学んでみたい分野はありますが、時間と生活のお金に余裕があれば、興味はあります。
・仕事との両立はとても難しくどちらか一方を選択せざるを得ないです。
現状生活資金を取らざるを得ません。
・広まっていけば良いと思います。
・現場で生かせる物を教えてもらいたい。日本は大学在学中に社会に出た時に本当に必要な物は教えてもらえない。税、株、年金、プレゼン仕方、資料の作り方、正しいビジネスマナー、保険について、いま必要な環境問題、人材育成の仕方、マネジメントの仕方、他国との経済社会の違いなど。在学中に企業に必要な物を学び企業のニーズに合った人材を育成するべきです。
・今日的テーマなので、社会に還元できることを期待しています
・大学院として日本初というフレーズは響きました。具体的にどのような事が学べてそれぞれの人生でどのようなゴールが見えるのか、イメージできるのかが伝わるリーフレットだと良いのではと思いました。
・興味がある方にはすばらしい取り組みと思います。ただ個人的には残り少ない人生を、自分の興味のある事を独学で学習したいと考えているのでそちらを最優先したいと思います。
・面白い視点です。興味のある方も多くおられることと思います。ぜひ実現に、向けて頑張ってください。
・学びもさることながら、社会経験を持ち寄った創発の場になりそうな気がしました。
・学生のころ社会学が面白いと感じつつも他の活動にかまけ、中途半端なことをしたことに後悔がありました。大人になってからこのような形で学び考える機会を選択できるのはありがたいことだと思います。
・新しい取り組みに挑戦するのは良いことです。ぜひ成功させて下さい。
・自分自身がこうなりたいという、学びを生かすシーンのイメージがもっと強く打ち出されていた方が良いと思われます。
・次世代の社会人育成において、非常に役に立つ学びができるのだということが伝わり、時間や経済的余裕があれば、入りやすいのかと思います。
・令和の柔軟な考え方の出来る時代に学ぶ事は私たち親世代では想像の及ばなかった事

を考え学べる大切な時間だと思います。
・社会学を学ぶ、進めるのに、回答にところに男性・女性で区別しているのがとっても気になります。人々が暮らしやすい、生きやすい社会を目指す学部であれば、アンケートだからではなく、まず男女の区別集約の考えを変えてもらいたいです。
・公共社会学が漠然としすぎて、リーフレットでは具体的なイメージが出来ませんでした。
・公共社会学が、卒業後どのような仕事に従事する人向けだとかがあるとイメージしやすく思います。私自身、こういった分野について深く理解できていないため、どういった仕事につながるのか疎いです。だからこそ、設置に関して否定も肯定もできません。
・SDGs について、社会での関心度は高まっている一方で、一企業の社会貢献や努力目標に近い認識でいます。ごく一部の方がその業界を生業とできているが、あくまで一部でしかないのでは感じています。
・この学びをもつことで将来のこのようなこと（仕事）に役立つという連想が多くの方に持つことが出きれば、受講する価値を見いだせると思います。要は数年棒に振ってでも先行する価値を感じれるかが重要ではないでしょうか（定年後に専攻するのでしたら何も問題ないですが)。
・リーフレットを拝見しましたが、非常に興味深い学びの機会になると感じました。
・リーフレットを拝読し、新鮮に感じました。事情が許せば学んでみたいと感じました。
・SDGs や環境に関する問題意識を多くの人たちが持つことはとても重要なことと思います。貴大学での学びをきっかけに、その学びが一般の人々にも広がっていくことを期待しています。たとえば、SDGs もソムリエのような資格（堅苦しい感じでなく）ができて、資格を持った方々がそれぞれの地域で環境やくらしのお役に立つような取り組みをされるとか…。
・みやぎ生協にはライフプランアドバイザーとして活動いただいている組合員がいます。ぜひこの公共社会学内で学習会が行えればうれしいです。ライフプランアドバイザーは、ライフプランや社会保障、税金など幅広いお金の知識を用いた学習会や乳がん早期発見のためにできることの活動も行っております。
・大学で学ぶ機会がなかったので、学ぶことには興味があります。
・今の子供たち、社会にとても必要な学科だと感じました。今後の、学習課程を見せて頂きたいと思います。入学を考えていない人にも、魅力を感じる学科になることに期待しています。
・凡その誰しもが近しい目標、目的に沿って生きているのではないかと思うが、実際は生きる環境によって“公共性”という言葉でさえ定義が様々だと感じています。
・同じ単語を用いてもアプローチが違えば期待とは全く別の受け止め方が待っていて、そこはコントロールが難しいと想うので、考え方と構造はアカデミックでも働き掛けは多くの人が飽きの来ない、興味を継続できる進め方を作りたい″
・社会人、しかも年齢かさねても学習できる場があるのは嬉しいことです。期待しております。
・自分は年齢的に厳しいですが、社会人も対象にしていることに共感します。
・取得可能な資格を増やしてほしいです。

・設置については社会人向けで良いこととおもいます。
・2年で履修でき専門社会調査士の資格が取得できるとのことですが、この資格の有用性（〇〇関連の就職に有利など）について説明があると、興味がわくかもしれません。
・ある程度社会に出て経験を積んでから学ぶことが出来るのは魅力的な事だと思います。
・時間的にも夕方や夜、オンラインでの出席等、自分の現在の生活に合わせて選択出来たら、より良いと思います。
・人と人のつながりの重要性、協同することの必要性、対話と理解をとおして持続可能な地域、社会づくりに貢献できる市民づくりに期待します。
・″修士･博士の減少は知的蓄積の減少として経済･社会・産業・技術の活力低下を招きます。その点、院の拡大は必要と思います。″
・新しい専攻ですが、これから重要になってくる分野だと思います。この専攻が設置されることで、地域づくりの担い手が育ってくることを期待しています。
・「公共社会学」で学ぶ、具体的な内容をより分かりやすく伝えてください。大変に広範囲な学問という漠然としたイメージでしか、とらえられませんでした。
・専門分野が多岐に渡り広く浅くなるが、これからの地球や人類の問題について興味深い。
・社会人としては毎日の通学は負担が大きいので、月に何時間や夜間のコマがあるとやってみようと思えるハードルが下がる。
・学びたい気持ちはあっても、余裕がないと難しい。会社側の配慮も、あるとよい。
・自分が社会の中で何か役立つことができないかと思いながらも何も出来ずに過ごしています。業務に追われこのまま人生が終わるのは少し寂しいなとアンケートに答えながら改めて思いました。
・震災直後はボランティアに参加したり、ＰＴＡの役員などしたり、外の世界とつながっていましたが、子どもも大きくなり、仕事の責任や量も増え、最近は遠ざかっていました。
・今回、少しだけ外の世界につながることが出来たような気になりました。学んでみたい思いはありますが、現実的ではありませんので「考えていない」に回答しました。
・大学院からの情報発信を期待いたします。″
・「地域づくりの担い手」とあるようにその地域に住まうすべての年代の人の事を考え創造できる若い人材を是非とも育ててほしいです。
・回答はネガティブな書き方で申し訳ありません。今の自分の環境があまり良くなく、関心事項がこの方面ではないだけで、社会人でも、学びたい方に門戸が開かれることはとても良いことだと思います。「公共」や「社会」については、社会人となったり家庭を持ったりするにつれ、考える機会が増え、重要性もよりわかるようになります。そのタイミングで学び直せる機会があることは有り難いことだと思います。
・「公共社会学」は範囲が広く、パンフレット見た時に、何を学び将来にどうつなげていけば良いのかを、具体的にイメージしにくかったですが、、個々に合った「学びたいこと」「取り組めること」の可能性と選択肢が広いということでもありますね。
・社会人でも学べる場があることは、とても良いと思います。　社会人になると　固定された環境の中で過ごすことが多いので、どうしても視野や考え方が狭くなります。　家

庭や職場でもない第3の場があることは、学びの意味でも、精神面でも、とても大きな意味を持つと思います。
・人種・年齢・性別を問わず、幅広い受講者同士での議論・意見交換が出来るとよい
・在宅でも受講できる環境があるとよい
・公共社会学を専攻して実生活に役立つ事があるか疑問
・幅広い年代層が学べる機会が作れれば幸いです。
・仮に社会人が入学したとして、学ぶことと所属する組織の利害とで相反することがあると思う。学ぶことと実践が離反しない手だてないし学ぶ本人の中で上手に消化できる考え方もコーチングできるとなお良いと思う
・泉区から大学院までかなりの距離があるため、わざわざ通うだけの魅力がないと受験しようと思わない。残念ながら、リーフレットに目を通しても興味が湧かなかった。
・持続可能な地域づくりや活性化はコープのコンセプトにも通づることもあり、特化した学びは是非、講演会などでもお聞きしたいです
・社会人でも学習の機会が増えることはよいことだと思います。様々な事情で就職の道を選んだ方でも学習意欲のある方はたくさんおられると思います。
・少子高齢化で地域の人口減少過疎化が社会問題となっています。地域を活性化する人材育成のためにも役立ててほしと考えます。よろしくお願いいたします。
・学生だと違うかもしれませんが、パンフレットから具体的に何を学ぶかイメージが湧かない気がします。
・日本の将来を担う人材育成に期待します。
・お世話になっております。すばらしい取り組みと思っております。今更ながら、学生時代にもう少し勉強していれば、視野や知識が広がっていたのに・・・と思います。設置認可の申請が通る事を願っております。
・新たな視点からの取り組みに期待します。
・アンケート調査､年齢を考えて送ってほしい。
・自身の勉強不足であまり理解していません。
・学生としてもう一度学習できる機会があることに新鮮味を感じました。一生、学習していきたい気持ちがあるので、仕事が落ち着いたら是非と思います。個人的に尚絅は地域の大学なのでこれからも期待しています。
・人間がみないろんな意味で平等が当たり前の社会になるための努力とは何？

C. **川崎町役場職員調査**　自由回答8件(明らかな誤字のみ訂正した)

・この度、尚絅学院大学大学院において、大学院としては日本初の教育課程「公共社会学専攻」設置ということで現代の社会的課題を様々な観点から学べることに興味を持って専攻する方も多くいることと思います。私個人としては、SDGs が多く言われている昨今、興味深い分野の一つだと感じました。(すいません、アンケートの問4の問いには、現状から言うと学べる時間がなかったのであまり興味がない・・・を選択してしまいましたが)
・「公共社会学専攻」の設置については、大変興味があります。卒業後は、公務員など公

共的職業に就かれて活躍されること期待しております。
・現在の社会情勢が不安な中で「公共社会」という大きなテーマをかかげている所がとても意欲的であると感じます。その中で、国や行政の公共社会の指針が見えていない現状があり、将来的な部分を強化し、カリキュラムに組み込めればとても有意義で場合によっては唯一無二の独自の学科となると思い期待しています。個人の知見と社会寄与が両立し多くの人が履修できることを願っています。
・県内はもとより日本の将来を担う人材育成のためにたゆまぬ努力をされていることに敬意を表します。引き続きご尽力ください。川崎町のことも変わらずごひいきに。
・机上で学ぶより、現場で学ぶべきことは多いため、地域社会ではどのような事があるか、また、地域毎で特色が異なるのでそれを肌で感じてもらい、実社会に出る前の経験として活かしてほしい。
・地域と密接に関わる中で、自分の目で見る、聞く、感じるということが重視された学びの場であってほしいと思います。
・これからの時代に必要な学びの分野だと思います。ぜひ若い人が学び、社会にいかしてほしいと思います。自分も気力、体力があれば研究をしたいと思います。
・現場主義による、より実践的で経験知を高めることができそうである。

D. **大衡村役場職員調査**　自由回答５件

・切り口の多い「社会学」において、市民・地域との対話に重点を置いた「公共社会学」は、行政にとっても大事な学問分野であると思います。対話の相手方が誰になるのか関心があります。様々な地域社会活動を担う団体であれば、社会調査も入りやすいと思います。統計的にはすぐに見えない社会問題。偏った見方になるかもしれませんが、貧困を起因とする社会的弱者。地域社会との関わりが持てない社会的に孤立している方。最近よく耳にするヤングケアラーのように、少し踏み込まないと見えてこないフィールドに光を当ててくれる「公共社会学」であってほしいと思いました。
・受験・入学の機会があるのであれば、学びを得て、職場に還元したいと思います。
・自治体職員として大変注目しています。学ぶ機会が得られればぜひと思いますが、大学側で整っても、自治体側では体制が整っていない状況です。公共社会学専攻とのかかわりをもって、現在の様々の課題を解決していくヒントやアドバイスが得られればと思います。
・内容については興味のあるものです。ただ年齢的なものもあり、学んだことを職場に生かせる（還元）できることが理想と思うのでもう少し若い世代が参加できるとよいと思います。
・現在、どの場面においても、サステナブルが課題になっている中、社会的ニーズに合った設置だと思いました。

尚絅学院大学大学院　公共社会学専攻についてのアンケート

人文社会学類　学類長
　　久慈　るみ子
尚絅学院大学特任教授
　　長谷川　公一

現在、尚絅学院大学では「公共社会学」の名称を掲げる、日本初の大学院修士課程を設置すべく文部科学省に認可を申請しています。来年4月からの開設をめざしています。この大学院について、人文社会学類の学生のみなさんがどのように考えているのか、緊急アンケートのお願いです。まず、配布されたリーフレット（PDF）をご覧ください。その上で、回答して下さい。締切は6月10日(金)17時です。回答時間は約15分程度です。無記名で、回答はいずれも統計的に処理します(メールアドレスは、同じ方が何度も回答していないかどうか確認するためにのみ用います)。

【担当・問い合わせ先】
尚絅学院大学
長谷川　公一
k_hasegawa@shokei.ac.jp

*必須

1。　メールアドレス *

2。　問1　あなたの学年を教えて下さい。

1 つだけマークしてください。

- 1年生
- 2年生
- 3年生
- 4年生

3。　問2　あなたの性別を教えて下さい。

1 つだけマークしてください。

- 男性
- 女性

4。　問3　あなたの出身地（都道府県）を教えて下さい。

1 つだけマークしてください。

- 宮城県
- 宮城県以外の東北地方の県
- 東北地方以外の都道府県

5。　問4　このアンケートに答えるまで、あなたは「公共社会学」という言葉を聞いたことがありましたか。

1 つだけマークしてください。

- 聞いたことがあり、内容もある程度理解していた。
- 聞いたことはあったが、内容は理解していなかった。
- 聞いたことがなかった。

6。　問5　配布されたリーフレットを読んで、あなたは「公共社会学」を学ぶことにどの程度興味がありますか。

1 つだけマークしてください。

- 非常に興味がある。
- ある程度興味がある。
- あまり興味がない。
- まったく興味がない。

7。 問6　仮に公共社会学専攻で学べるとしたら、学んでみたい内容は何ですか。当てはまるものすべてにチェックを入れて下さい。

当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] まちづくり
- [ ] 災害復興
- [ ] 地域の文化・歴史
- [ ] 生涯学習
- [ ] ジェンダー/人材養成
- [ ] メディア/コミュニケーション
- [ ] グローバル化
- [ ] SDGs
- [ ] 気候危機/地球温暖化
- [ ] 産業・労働
- [ ] 格差
- [ ] 市民社会

8。 問7　公共社会学専攻の修士課程を、4年次に、あるいは卒業後に、あなたは受験してみたいですか。

1 つだけマークしてください。

- ( ) 是非、受験してみたい
- ( ) 経済面や親の理解など、事情が許せば、受験してみたい
- ( ) 何年後かに、ある程度社会人としての経験を積んだうえで受験してみたい
- ( ) 受験することは考えていない

9。 問8　仮に入学試験に合格したら、公共社会学専攻の修士課程に入学したいですか。

1 つだけマークしてください。

- ( ) 是非、入学したい
- ( ) 経済面や親の理解など、事情が許せば、入学したい
- ( ) 何年後かに、ある程度社会人としての経験を積んだうえで入学したい
- ( ) 入学することは考えていない

10。　問9　尚絅学院大学大学院「公共社会学専攻」の設置について、意見や要望、期待などがあれば自由にご記入ください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

尚絅学院大学大学院　公共社会学専攻についてのアンケート

　現在、尚絅学院大学では「公共社会学」の名称を掲げる、日本初の大学院修士課程を設置すべく文部科学省に認可を申請しています。来年4月からの開設をめざしています。この大学院について、みやぎ生協の職員の方々がどのように考えているのか、緊急アンケートのお願いです。まず、添付のリーフレット（PDF）をご覧ください。その上で、回答して下さい。回答時間は約15分程度です。締切は6月10日(金)17時です。無記名で、回答はいずれも統計的に処理します。よろしくお願いいたします(メールアドレスは、同じ方が何度も回答していないかどうか確認するためにのみ用います)。
　なお受験資格、受講スケジュール、入試等に関する詳細は早急に確定いたしますが、以下のように対応する予定です（変更が生じる場合があります）。
【受験資格について】高卒もしくは短大卒業の方の場合も、社会人経験を加味して受験資格を認める予定です。
【受講スケジュールについて】社会人の方向けに、平日夜、土曜日の開講を検討しております。またZoomなどを用いてリモートでの授業実施にも対応する予定です。
【入試について】社会人の方向けに、問題関心・学修意欲に力点を置いたものとなる予定です。

【担当・問い合わせ先】
尚絅学院大学
長谷川　公一
k_hasegawa@shokei.ac.jp

---

*必須

1。　メールアドレス *

2。　問1　あなたの年齢を教えて下さい（数字を記入）。

3。　問2　あなたの性別を教えて下さい。

1 つだけマークしてください。

- 男性
- 女性

4。 問3　仮に大学院で学べる機会が持てたら、学んでみたい内容は何ですか。当てはまるものすべてにチェックを入れて下さい。

当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] 問いの立て方
- [ ] プレゼンテーションの仕方
- [ ] 文献や資料の探し方
- [ ] インタビューやフィールドワークの仕方
- [ ] レポートや筋道だった文章の書き方
- [ ] 調査票の作り方、回答の集計の仕方
- [ ] 人脈のひろげ方
- [ ] 発想の仕方
- [ ] 議論の仕方
- [ ] その他: _____

5。 問4　添付されたリーフレットを読んで、あなたは「公共社会学」を学ぶことにどの程度興味がありますか。

1 つだけマークしてください。

- ( ) 非常に興味がある。
- ( ) ある程度興味がある。
- ( ) あまり興味がない。
- ( ) まったく興味がない。

6。 問5　仮に公共社会学専攻で学べるとしたら、学んでみたい分野は何ですか。当てはまるものすべてにチェックを入れて下さい。

当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] まちづくり
- [ ] 災害復興
- [ ] 地域の文化・歴史
- [ ] 生涯学習
- [ ] ジェンダー/人材養成
- [ ] メディア/コミュニケーション
- [ ] グローバル化
- [ ] SDGs
- [ ] 気候危機/地球温暖化
- [ ] 産業・労働
- [ ] 格差
- [ ] 市民社会

7。 問6　仮に学ぶ意欲があったとして、働きながら大学院で学ぶことについて、あなたにとって予想される困難は何ですか。当てはまるものすべてにチェックを入れて下さい。

当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] 業務が忙しく時間がない
- [ ] 経済的余裕がない
- [ ] 家族の理解が得られそうにない
- [ ] 修士論文を書き上げるだけの気力が続かない
- [ ] 市民活動や趣味など、ほかにやりたいことがある

8。 問7　公共社会学専攻の修士課程を、あなたは受験してみたいですか（高卒もしくは短大卒業の方の場合も、社会人経験を加味して受験資格を認める予定です）。

1 つだけマークしてください。

- 是非、受験してみたい
- 経済面や、職場や家族の理解など、事情が許せば、受験してみたい
- 定年退職後に受験してみたい
- 受験することは考えていない

9。 問8　仮に入学試験に合格したら、公共社会学専攻の修士課程に入学したいですか（入学試験は、社会人の方向けに、問題関心・学修意欲に力点を置いたものとなる予定です）。

1 つだけマークしてください。

- 是非、入学したい
- 経済面や、職場や家族の理解など、事情が許せば、入学したい
- 定年退職後に入学したい
- 入学することは考えていない

10。 問9　尚絅学院大学大学院「公共社会学専攻」の設置について、意見や要望、期待などがあれば自由にご記入ください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

尚絅学院大学総合人間科学研究科修士課程
「公共社会学専攻」に関する
アンケート調査

２０２２年６月

尚絅学院大学　学長
鈴木 道子

私たちの足元の問題から、気候変動問題などの地球規模の問題に至るまで、現代社会にはさまざまな公共的課題があります。これらについて、市民社会・地域社会の人々と対話を重ね、実社会での経験をふまえた学びによる課題解決が求められています。

これらの課題に応えるために、現在、尚絅学院大学では「公共社会学」の名称を掲げる、日本初の大学院修士課程を設置すべく文部科学省に認可を申請しております。2023 年 4 月の開設をめざしています。この大学院について、本学と包括的連携協定を結んでおられる川崎町の職員の方々がどのように考えておられるのか、どの程度関心をお持ちか、緊急アンケートのお願いです。

まず、配布された「公共社会学」に関するリーフレットをご覧ください。その上で、回答して下さい。回答時間は約 15 分程度です。無記名で、回答はいずれも統計的に処理いたします。是非ともご協力ください。

なお受験資格、受講スケジュール、入試等に関する詳細は早急に確定いたしますが、以下のように対応する予定です。

○受験資格について：	高卒もしくは短大卒業の方の場合も、社会人経験を加味して受験資格を認める予定です。
○受講スケジュールについて：	社会人の方向けに、平日夜、土曜日の開講を検討しております。また Zoom などを用いてリモートでの授業実施にも対応する予定です。
○入試について：	社会人の方向けの入試は、小論文･面接を中心としたものとなる予定です。

【 担当･問合せ先 】
〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘 4-10-1
尚絅学院大学　特任教授
長谷川　公一
Tel/FAX 022-388-3999
E-mail　k_hasegawa@shokei.ac.jp

アンケートは全９問、４ページ目まであります。
よろしくお願いいたします。

問１．あなたの**性別**を教えてください（○は１つ）。

１　男性	２　女性

問２．あなたは 2022 年６月現在、**おいくつ**ですか（数字を記入）。

（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿歳　）

問３．仮に大学院で学べる機会が持てたら、あなたが学んでみたい内容は何ですか。以下の１～10 について、**当てはまる番号すべてに○**をつけてください。

↓あてはまるものすべてに○をつける	
	１　問いの立て方
	２　プレゼンテーションの仕方
	３　文献や資料の探し方
	４　インタビューやフィールドワークの仕方
	５　レポートや筋道だった文章の書き方
	６　調査票の作り方、回答の集計の仕方
	７　人脈のひろげ方
	８　発想の仕方
	９　議論の仕方
	10　その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問４．配布されたリーフレットを読んで、あなたは「公共社会学」を学ぶことにどの程度興味がありますか。（○は１つ）。

１　非常に興味がある	３　あまり興味がない
２　ある程度興味がある	４　まったく興味がない

問５．仮に大学院で学べる機会が持てたら、あなたが学んでみたい分野は何ですか。以下の１～12 について、**当てはまる番号すべてに〇**をつけてください。

↓あてはまるものすべてに〇をつける	
	１　まちづくり
	２　災害復興
	３　地域の文化・歴史
	４　生涯学習
	５　ジェンダー／人材養成
	６　メディア／コミュニケーション
	７　SDGs
	８　気候危機／地球温暖化
	９　産業・労働
	10　社会的格差
	11　市民社会
	12　その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問６．仮に学ぶ意欲があったとして、働きながら大学院で学ぶことについて、あなたにとって予想される困難は何ですか。以下の１～6 について、当てはまるものすべてにチェックを入れて下さい。

↓あてはまるものすべてに〇をつける	
	１　業務が忙しく時間がない
	２　経済的余裕がない
	３　家族の理解が得られそうにない
	４　修士論文を書き上げるだけの気力が続かない
	５　市民活動や趣味など、ほかにやりたいことがある
	６　その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問７．公共社会学専攻の修士課程を、あなたは受験してみたいですか（大学卒業でない方の場合にも、社会人経験を加味して受験資格を認定します）（○は１つ）。

１　是非、受験してみたい	３　定年退職後に受験してみたい
２　経済面や職場や家族の理解など、事情が許せば受験してみたい	４　受験することは考えていない

問８．仮に入学試験に合格したら、公共社会学専攻の修士課程に入学したいですか。（○は１つ）。

１　是非、入学したい	３　定年退職後に入学したい
２　経済面や職場や家族の理解など、事情が許せば入学したい	４　入学することは考えていない

問９．尚絅学院大学大学院「公共社会学専攻」の設置について、意見や要望などがあれば自由にご記入ください。

質問はこれで終わりです。
ご協力いただきありがとうございました。

尚絅学院大学総合人間科学研究科修士課程
「公共社会学専攻」に関する
アンケート調査

２０２２年６月

尚絅学院大学　学長
鈴木 道子

私たちの足元の問題から、気候変動問題などの地球規模の問題に至るまで、現代社会にはさまざまな公共的課題があります。これらについて、市民社会・地域社会の人々と対話を重ね、実社会での経験をふまえた学びによる課題解決が求められています。

これらの課題に応えるために、現在、尚絅学院大学では「公共社会学」の名称を掲げる、日本初の大学院修士課程を設置すべく文部科学省に認可を申請しております。2023 年 4 月の開設をめざしています。この大学院について、本学と包括的連携協定を結んでおられる大衡村の職員の方々がどのように考えておられるのか、どの程度関心をお持ちか、緊急アンケートのお願いです。まず、配布された「公共社会学」に関するリーフレットをご覧ください。その上で、回答して下さい。回答時間は約 15 分程度です。無記名で、回答はいずれも統計的に処理いたします。是非ともご協力ください。

なお受験資格、受講スケジュール、入試等に関する詳細は早急に確定いたしますが、以下のように対応する予定です。

○受験資格について：	高卒もしくは短大卒業の方の場合も、社会人経験を加味して受験資格を認める予定です。
○受講スケジュールについて：	社会人の方向けに、平日夜、土曜日の開講を検討しております。また Zoom などを用いてリモートでの授業実施にも対応する予定です。
○入試について：	社会人の方向けの入試は、小論文･面接を中心としたものとなる予定です。

【 担当･問合せ先 】
〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘 4-10-1
尚絅学院大学　特任教授
長谷川　公一
Tel/FAX 022-388-3999
E-mail　k_hasegawa@shokei.ac.jp

アンケートは全９問、４ページ目まであります。
よろしくお願いいたします。

問１．あなたの**性別**を教えてください（○は１つ）。

１　男性	２　女性

問２．あなたは 2022 年６月現在、**おいくつ**ですか（数字を記入）。

（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿歳　）

問３．仮に大学院で学べる機会が持てたら、あなたが学んでみたい内容は何ですか。以下の１～10 について、**当てはまる番号すべてに○**をつけてください。

↓あてはまるものすべてに○をつける	
	１　問いの立て方
	２　プレゼンテーションの仕方
	３　文献や資料の探し方
	４　インタビューやフィールドワークの仕方
	５　レポートや筋道だった文章の書き方
	６　調査票の作り方、回答の集計の仕方
	７　人脈のひろげ方
	８　発想の仕方
	９　議論の仕方
	10　その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問４．配布されたリーフレットを読んで、あなたは「公共社会学」を学ぶことにどの程度興味がありますか。（○は１つ）。

１　非常に興味がある	３　あまり興味がない
２　ある程度興味がある	４　まったく興味がない

問５．仮に大学院で学べる機会が持てたら、あなたが学んでみたい分野は何ですか。以下の１～12 について、**当てはまる番号すべてに〇**をつけてください。

↓あてはまるものすべてに〇をつける	
	１　まちづくり
	２　災害復興
	３　地域の文化・歴史
	４　生涯学習
	５　ジェンダー／人材養成
	６　メディア／コミュニケーション
	７　SDGs
	８　気候危機／地球温暖化
	９　産業・労働
	10　社会的格差
	11　市民社会
	12　その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問６．仮に学ぶ意欲があったとして、働きながら大学院で学ぶことについて、あなたにとって予想される困難は何ですか。以下の１～6 について、当てはまるものすべてにチェックを入れて下さい。

↓あてはまるものすべてに〇をつける	
	１　業務が忙しく時間がない
	２　経済的余裕がない
	３　家族の理解が得られそうにない
	４　修士論文を書き上げるだけの気力が続かない
	５　市民活動や趣味など、ほかにやりたいことがある
	６　その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問７．公共社会学専攻の修士課程を、あなたは受験してみたいですか（大学卒業でない方の場合にも、社会人経験を加味して受験資格を認定します）（○は１つ）。

１　是非、受験してみたい	３　定年退職後に受験してみたい
２　経済面や職場や家族の理解など、事情が許せば受験してみたい	４　受験することは考えていない

問８．仮に入学試験に合格したら、公共社会学専攻の修士課程に入学したいですか。（○は１つ）。

１　是非、入学したい	３　定年退職後に入学したい
２　経済面や職場や家族の理解など、事情が許せば入学したい	４　入学することは考えていない

問９．尚絅学院大学大学院「公共社会学専攻」の設置について、意見や要望などがあれば自由にご記入ください。

質問はこれで終わりです。
ご協力いただきありがとうございました。

【資料 2】本学が大学間交流協定を締結しているアジア圏および英語圏の大学一覧

アジア圏

国名	大学名	所在都市	設置形態	協定締結年月	留学生受入実績(名)	（参考）派遣
中国	大連理工大学	遼寧省大連市	公立	平成25年3月	14	4
台湾	弘光科技大学	台中市	私立	平成27年12月	2	0
韓国	培材大学	大田広域市	私立	平成28年2月	1	2
中国	浙江越秀外国語学院	浙江省 紹興市	私立	平成28年4月	6	0
ベトナム	ダナン大学付属師範大学	ダナン市	公立	平成30年7月	0	0
中国	嶺南師範学院	広東省湛江市	公立	令和1年10月	0	0

英語圏

国名	大学名	所在都市	設置形態	協定締結年月	留学生受入実績(名)	（参考）派遣
アメリカ	ジャドソン大学	イリノイ州エルジン	私立	平成22年12月	0	0
アメリカ	シカゴ心理専門職大学院	イリノイ州シカゴ	私立	平成28年2月	0	0
アメリカ	オリンピックカレッジ	ワシントン州ブレマートン	公立	平成30年12月	0	4
オーストラリア	サザンクロス大学	NSW州リズモア	公立	令和4年2月（予定）	0	0

【資料 3】地元企業等の修了生受け入れ意向

1. 調査概要

公共社会学専攻修了生に対する地元企業等事業所側の受け入れ意向等を明らかにするため、質問紙調査を実施した。調査は質問紙を用いて、進路就職課の職員がこれまで本学の卒業生を積極的に受け入れている 58 事業所を予約の上直接個別に訪問し、公共社会学専攻に関する簡潔なリーフレット(学生・役場職員等の調査で共通に利用)を示して概要を説明し、その上で回答してもらった。回答にあたっては、回答者名とその職位を記してもらった。回答者は経営幹部もしくは人事担当者だった。

調査期間は 2022 年 5 月 31 日～6 月 16 日。有効回答数は 58 であった。

2. 回答の傾向

図 1 は回答事業所の業種である。対人サービス業、卸売業・小売業、事業所向けのサービス業、建設業・製造業が主な業種であり、以上で全体の 93%を占める。なお N は各設問の有効回答数である。

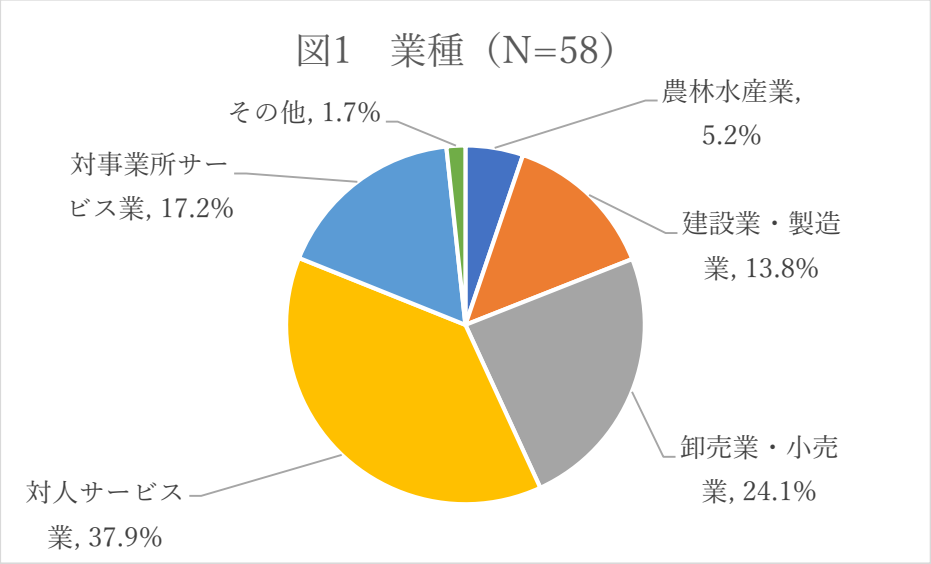


図 2 は従業員が公共社会学を学ぶ意義である。「非常に意義がある」が 72.4%、「ある程度意義がある」が 27.6%で、「全く意義がない」は 0%だった。多忙な業務にもかかわらず、調査を引き受けてくれたこと自体が、本学の新専攻に関する一定の関心を示しているが、非常に意義があるが 7 割を越えていることは注目される。

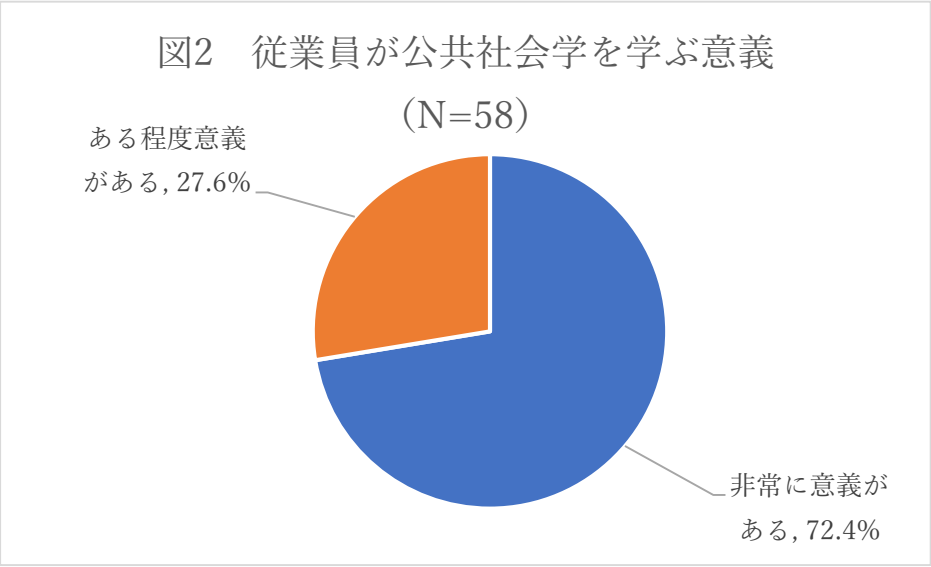


図 3 は、公共社会学専攻修了の学生を採用したいかである。「是非、採用してみたい」が 55.4%、「学生の学修内容によっては採用したい」が 37.5%で、「採用することは考えていない」が 7.1%だった。「是非、採用してみたい」が過半数を越えていること、「学修内容によっては採用したい」が 4 割近いことが注目される。両者をあわせると 93%になる。

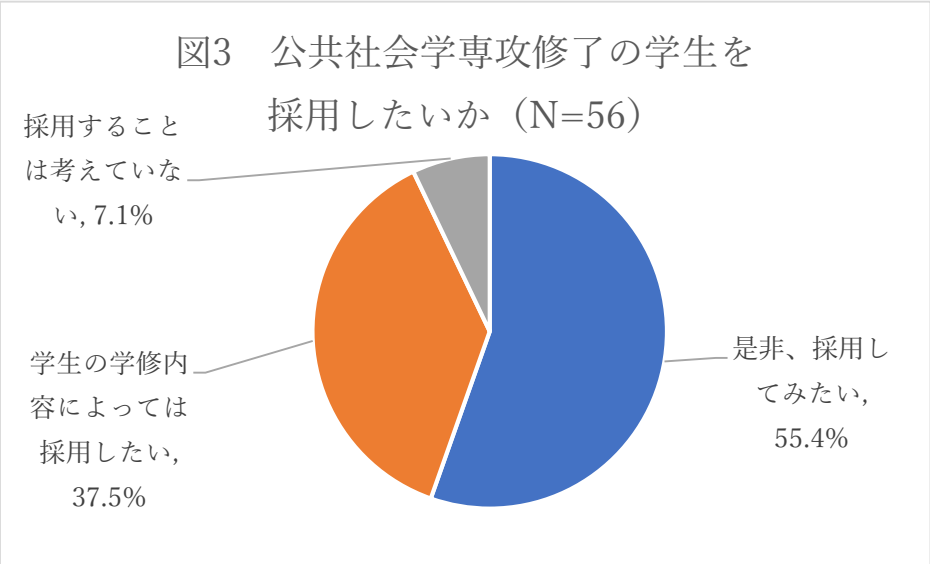


図 4 はどのような学修内容を身につけた学生に関心があるかの回答結果（複数回答）である。「地域住民との対話能力」と「SDGs に関する具体的取り組み」がともに 70.7%ともっとも多かった。

「統計データ分析の技能」、「インタビューや社会調査の技能」を挙げる事業所が多いと予想していたが、この 2 つの技能を上回っている。リーフレットでは「市民社会や地域社会との対話をめざす新しい社会学」を謳っており、SDGs ウェディングケーキモデルを示して、SDGs 教育を重視していることを強調しているが、この 2 点に関して、事業所側からの期待が大き

いことがわかった。「SDGs が重要なことはわかるが、企業として何をしてよいか、何ができるのかわからない」という声をしばしば聞く。SDGs に関する具体的取り組みについて企画力や提案力、実行力のある人材を企業側が求めていることが想定される。

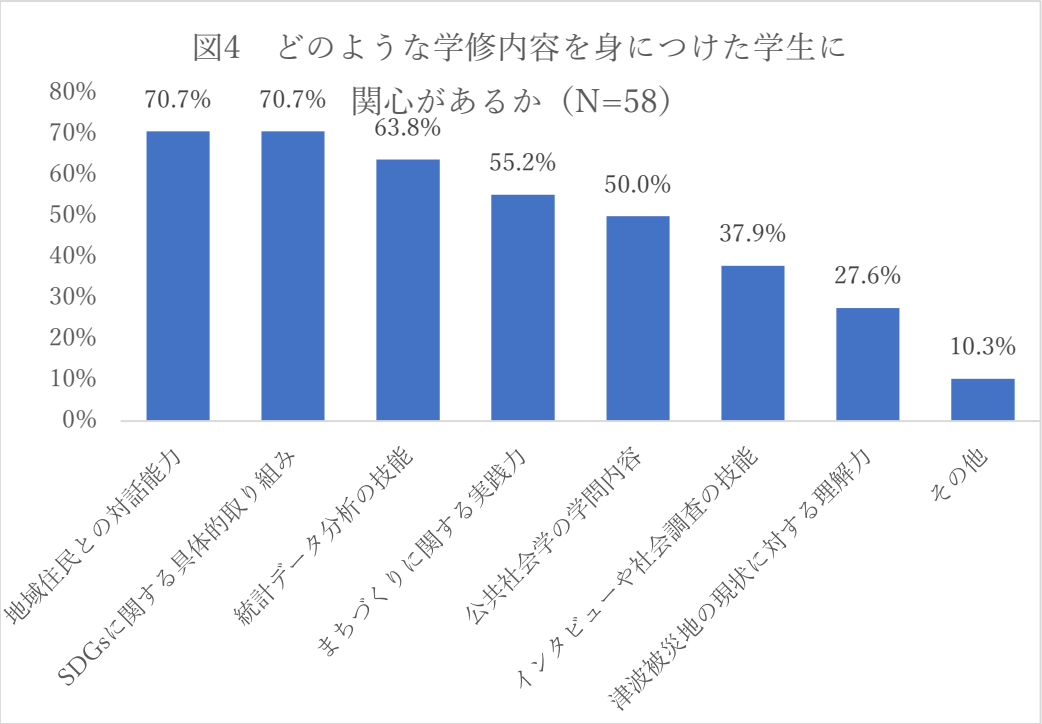


図５によって、従業員が公共社会学を学ぶ意義を業種別にみてみると、どの業種でも非常に意義があると回答した割合が大きい。とくに卸売業・小売業では 85%を越えている。顧客のニーズに敏感な事業所ほど、従業員が公共社会学を学ぶ意義を積極的に評価する傾向を見てとることができる。

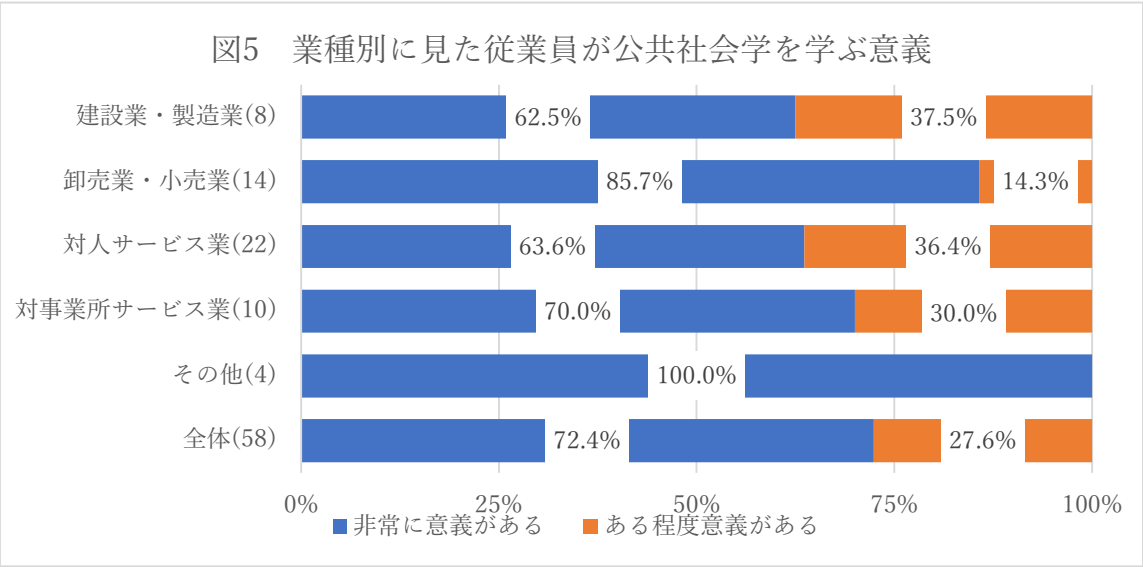
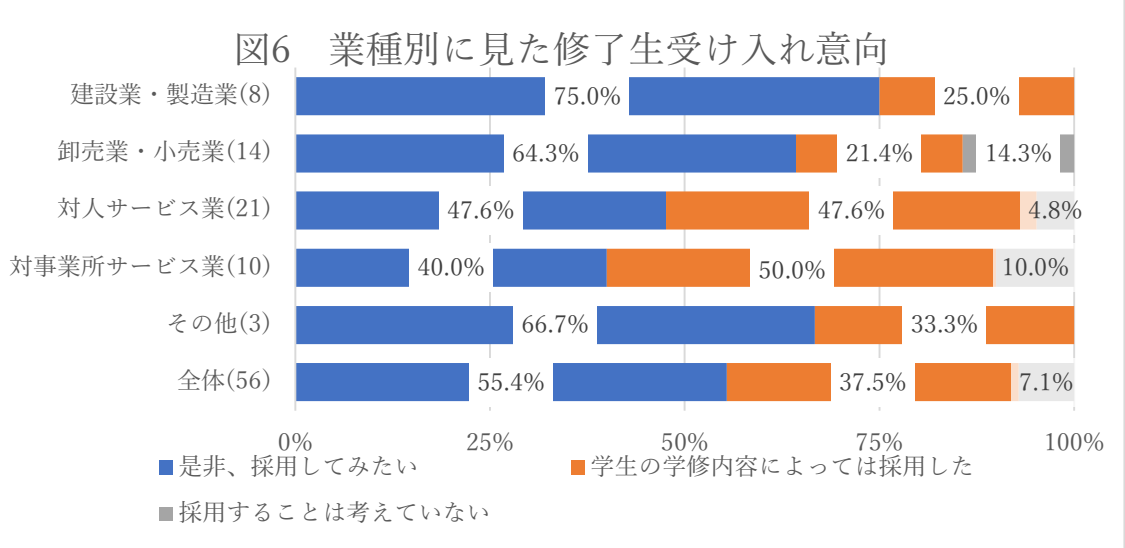


図 6 は、業種別にみた修了生の受け入れ意向である。いずれの業種でも、「是非」と「学生の

学修内容によっては」を合わせると 90%を越える。その中でも建設業・製造業で最も受け入れ意向が高く、卸売業・小売業、対人サービス業、対事業所サービス業の順である。建設業・製造業は事業所の規模が比較的大きい。事業所の規模が大きいほど、受け入れに積極的な傾向を見てとることができる。



関心のある学生の能力と受け入れ意向との関係を表 1 にまとめた。「是非、採用してみたい」と回答した割合が高い上位 3 項目を示した。

これを見ると、「是非、採用してみたい」と回答した割合が高い学生の能力は「津波被災地の現状に対する理解力」（75.0%）、「公共社会学の学問内容」（71.4%）、「まちづくりに関する実践力」（61.3%）の順であった。「津波被災地の現状に対する理解力」は、図 4 で示したように、関心のある事業所の数は相対的に少ないにもかかわらず、「是非、採用してみたい」という受け入れ意向との結びつきが強いことが注目される。「公共社会学の学問内容」、「まちづくりに関する実践力」も同様の傾向がある。これらの項目は事業所側にとって、いわば即戦力としての期待の高い能力でもあり、沿岸部は東日本大震災の被災地に近く、仙台圏以外の内陸部は少子高齢化や過疎化が深刻化している地域社会に固有のニーズと言えよう。

一方、図 4 のように、「地域住民との対話能力」や「SDGs に関する具体的取り組み」は、事業所の関心度は高かったが、「是非、採用してみたい」という受け入れ意向との結びつきは相対的に弱かった。

表1　関心のある学生能力と修了生の受け入れ意向との関係：上位3項目

	是非、採用してみたい	学生の学修内容によっては採用したい	採用することは考えていない
全体(56)	55.40%	37.50%	7.10%
津波被災地の現状に対する理解力(16)	75.0%	25.0%	
公共社会学の学問内容(28)	71.4%	25.0%	3.6%
まちづくりに関する実践力(31)	61.3%	35.5%	3.2%

3. まとめ―修了生に対する中長期的社会的需要

公共社会学専攻の修了生の受け入れに関して、事業所側の受け入れ意向は事前の予想を越えて高く「是非、採用してみたい」が過半数を越えていた。従業員が公共社会学を学ぶ意義も「非常に意義がある」が 72.4%ときわめて高かった。

業種別にみても、どの業種でも、従業員が公共社会学を学ぶ意義を高く評価し、受け入れ意向も「是非」と「学生の学修内容によっては」を合わせると 90%を越えている。

学生の学修内容として関心がある項目は、「統計データ分析の技能」のような技能的な能力よりも「地域住民との対話能力」と「SDGs に関する具体的取り組み」がともに 70.7%ともっとも多かった。SDGs 教育を重視し、「市民社会や地域社会との対話をめざす新しい社会学」という新専攻の理念に対して、事業所側からの期待やニーズが大きいことが確認できた。

また事業所側の受け入れ意向と関連が高い学修内容は「津波被災地の現状に対する理解力」、「公共社会学の学問内容」、「まちづくりに関する実践力」であった。「津波被災地の現状に対する理解力」に関心をもつ 16 事業所のうち 12 事業所(75.0%)が「是非、採用してみたい」と回答した。「公共社会学の学問内容」に関心をもつ 28 事業所のうち 20 事業所(71.4%)は「是非、採用してみたい」と回答した。同様に「まちづくりに関する実践力」に関心をもつ 31 事業所のうち 19 事業所(61.3%)が「是非、採用してみたい」と回答した。この 3 項目いずれについても関心が高く「是非、採用してみたい」と回答したのは計 7 事業所だった。2 項目について関心が高く「是非、採用してみたい」と回答したのは、このほか計 8 事業所だった。これら 15 事業所は、採用意欲がとりわけ高い事業所とみなすことができる。「津波被災地の現状に対する理解力」と「まちづくりに関する実践力」のような地域社会の喫緊の

ニーズに応えていくことが、継続的に事業所側に修了生を受け入れてもらう上で重要であることが確認できた。

有職の社会人学生については基本的に修了後、培った能力・技能を携えて元の職場に復帰することを想定している。新たに就労が必要なのは、年間6名程度の修了生のうち、基本的には新卒で進学してきた3名程度と仮定される。

以上のように、本専攻を修了した学生に対して、地場の企業などから、中長期的な社会的需要が見込まれることを確認できた。

末尾に使用した調査票を添付した。

尚絅学院大学総合人間科学研究科修士課程
「公共社会学専攻」に関する
アンケート調査

２０２２年６月

尚絅学院大学　学長
鈴木 道子

私たちの足元の問題から、気候変動問題などの地球規模の問題に至るまで、現代社会にはさまざまな公共的課題があります。これらについて、市民社会・地域社会の人々と対話を重ね、実社会での経験をふまえた学びによる課題解決が求められています。

これらの課題に応えるために、現在、尚絅学院大学では「公共社会学」の名称を掲げる、日本初の大学院修士課程を設置すべく文部科学省に認可を申請しております。2023 年 4 月の開設をめざしています。この大学院について、宮城県内の企業の方々がどのように考えておられるのか、どの程度関心をお持ちか、緊急アンケートのお願いです。まず、配布された「公共社会学」に関するリーフレットをご覧ください。その上で、回答して下さい。回答時間は約 15 分程度です。無記名で、回答はいずれも統計的に処理いたします。是非ともご協力ください。

なお受験資格、受講スケジュール、入試等に関する詳細は早急に確定いたしますが、以下のように対応する予定です（変更が生じる場合があります）。

○受験資格について：	高卒もしくは短大卒業の方の場合も、社会人経験を加味して受験資格を認める予定です。
○受講スケジュールについて：	社会人の方向けに、平日夜、土曜日の開講を検討しております。また Zoom などを用いてリモートでの授業実施にも対応する予定です。
○入試について：	社会人の方向けに、問題関心・学修意欲に力点を置いたものとなる予定です。

【 担当･問合せ先 】
〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘 4-10-1
尚絅学院大学　特任教授
長谷川　公一
Tel/FAX 022-388-3999
E-mail　k_hasegawa@shokei.ac.jp

アンケートは裏面、全５問です。
よろしくお願いいたします。

会社名		調査日	

問１．あなたのお名前・職務を教えて下さい。

担当者のお名前		職務の内容	

問２．御社の業種を教えて下さい（○は１つ）。

１　農林類産業	４　対人サービス業
２　建設業・製造業	５　対事業所サービス業
３　卸売業・小売業	６　その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問３．配布されたリーフレットを読んで、家族の理解が得られ、経済的条件などが許されれば、あなたの会社の従業員が社会人学生などとして「公共社会学」を学ぶことの意義をどのように思いますか（○は１つ）。

１　非常に意義がある	３　あまり意義はない
２　ある程度意義がある	４　まったく意義はない

問４．公共社会学専攻の修了生を自社で採用してみたいと思いますか（○は１つ）。

１　是非、採用してみたい	３　採用することは考えていない
２　学生の学修内容によっては採用したい	

問５．どのような学修内容を身につけた学生に関心がありますか。以下の１～8 について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

↓あてはまるものすべてに○をつける	
	１　公共社会学の学問内容
	２　インタビューや社会調査の技能
	３　統計データ分析の技能
	４　地域住民との対話能力
	５　SDGs に関する具体的取組み
	６　まちづくりに関する実践力
	７　津波被災地の現状に対する理解力
	８　その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

質問はこれで終わりです。
ご協力いただきありがとうございました。